

ヨリ脾脫疽菌ヲ發見セラレタリ顯微鏡下ニ檢査スルニ脾脫疽菌ハ諸内臓ノ細血管内ニ在リテ

腦及ヒ腦膜ニ於テハ淋巴腔内ニ群集ス

**診斷** 脾脫疽ハ診斷シ易キヲ期シ難シ膿胞内容物浮腫部ノ内容物血液痰或ハ糞便中ヨリ脾

脫疽菌ヲ發見シ得タルトキハ其症ノ脾脫疽ナルコト疑フヘカラサルモ該菌ノ缺如ハ必ラスシ

モ脾脫疽ヲ否定スルモノニアラス患者發病前ニ脾脫疽ニ罹レル獸類ニ觸レタル形跡アルハ診

斷上屢重要ナリ總テ疑ハシキ場合ニハ宜シク培養及ヒ接種ヲ行フヘシ接種ニ適當セルハ殊ニ

家兔、メールシウインヘン及ヒ豚鼠ニシテ是等ノ獸類ハ炎症産物ヲ接種スルニ一日乃至三日ニ

シテ斃死ス然レトモ脾脫疽菌ノ外化膿菌醱膿性連鎖狀球菌黃色及ヒ白色醱膿性葡萄狀球菌發

見セラル、コト稀ナリトセス

**豫後** 皮膚脾脫疽ハ腸及ヒ肺脾脫疽ニ比スレハ豫後良好ナリ而シテ皮膚脾脫疽ノ豫後ノ如

何ハ全身症狀尙未タ發現セサルニ當リテ適當ナル處置ヲ施スト否トニ關係アリテ其平均死亡

率ハ五%ヨリ二〇%ノ間ナリ之ニ反シ肺及ヒ腸脾脫疽ノ死亡率ハ遙ニ高クシテ少キハ五〇%

ヨリ多キハ九〇%ニ達ス

**療法** 最近脾脫疽ニ特殊療法トシテ血清ヲ試用シタルモノアリ則チスクラウア及ヒソベルン

ハイムノ兩氏ハ脾脫疽血清ヲ案出セラレタリ而シテスクラウア氏ノ血清ニ就テハアルバゴウキ

ルムス、ロククウード及ヒアンドリヨース、レグ其ストレットンノ諸氏其有效ナルヲ報告シタリシ

カミツチエル氏ハ之ヲ以テ無効ナリトセリソベルンハイム氏ノ血清ニ關シテハラエウエン氏卓效

アルヲ見タリト云フ余ハ從來脾脫疽血清ヲ試用スル機會ニ遭遇セサリシカ此血清ハ假使效力

ナキモ尙無害ナルヲ以テ必ラス使用スヘキモノト考フソベルンハイム氏ノ脾脫疽血清ハ靜脈

内ニ注入スヘキモノトス

血清療法ヲ行フ場合ニモ症候的療法ヲ忽ニスヘカラサルヤ論ナキノミ則チ脾脫疽癰疽ニハ屢

切開、石炭酸腐蝕及ヒ燒灼賞美セララル然レトモ數多ノ外科醫ハ是等ノ療法ヲ諫止シ單ニ患部ヲ

安靜ニシテ昇汞水ノ塗法(千倍)或ハ灰白水銀軟膏ノ塗擦ヲ行フ脾脫疽癰疽ヲ少シク隔タリテ其

周圍ノ皮下ニ石炭酸水(二十倍)沃度丁幾(ボルダッハ)或ハ「リブヨドール」(トウーベ)及ヒ「レブレ」ヲ注

入スルハ屢用キラル、法タリウキダロウキヒ氏ハ鬱血療法ヲ賞美セラレタリ

フオン、ロイベ氏ハ腸脾脫疽ニ内服藥トシテ「キニーネ」及ヒ石炭酸ヲ使用セラレタリ余カ好シテ用

キルハ甘汞一日二回〇〇(二)ト食鹽水(〇二)ト一〇〇〇ノ注腸トナリ沃度加里モ亦推奨セラレ

タリ

**豫防** 上第一著ニ注目スヘキハ獸類ノ脾脫疽ノ處置ニシテ其方法ニ關シテハ宜シク獸醫竝ニ衛

生警察ノ教科書ヲ参照スヘシ其他生活シ或ハ已ニ斃死シタル脾脫疽獸ヲ取り扱フニ當リテハ

大ニ注意スルヲ要シ皮革、毛骨及ヒ角ヲ處置スル際ニモ亦然リ脾脫疽ニ罹リタル獸類ノ肉竝ニ

乳汁ハ強熱ヲ加フルトキハ傳染性ヲ奪却スルヲ得ルト雖モ寧ろ食セサルヲ安全ナリトス、襪、

皮革、毛骨及ヒ角ハ加工ニ前チテ消毒セサル可ラス腸及ヒ肺脾脫疽患者ノ痰及ヒ糞便ハ消毒ス

ルヲ必要ナリトシ最良ナルハ燒却スルニ在リ總テノ繃帶材料モ亦燒却セサル可ラス死體ヲ解

剖スルニ當リテハ平素ヨリモ更ラニ負傷ノ豫防ニ注意セサル可ラス

### 第四節 口疫及ヒ蹄疫 *Aphthae epizooticae.*

**原因** 口疫及ヒ蹄疫ハ牛、羊、及ヒ豚、ニ發生スルコト最モ多ク山羊及ヒ馬ニハ稍稀ニシテ犬及



ヒ鳥類ニハ更ラニ稀ナリテウエル及ヒエックルトノ兩氏ハ馴鹿モニオッコー氏ハ「ダムウルド」レベン氏ハ象ノ之ニ罹リシヲ實驗シタリト云フ抑、本病ハ病獸ノ口内粘膜趾間及ヒ乳頭ニ水泡ヲ生スル一種ノ急性傳染病ニシテ熱ヲ帶フ且本病ハ他ニ傳染スルノ性アリテ病毒ハ水泡ノ内容物ノミナラス尿糞便血液及ヒ乳汁ニモ附著ス

口疫及ヒ蹄疫ノ病原ハ不明ナリ勿論本病ノ病原ナリトシテ球菌桿菌及ヒ原生蟲ヲ報告シタルモノアレトレフレル及ヒフロシユノ兩氏ハ是等ハ畢竟偶然ノ混合物ニシテ無意義ナリトセリ蓋シ至論タリ

人類ノ本病ニ傳染スルハ其例ニ乏シカラスシテブッセニユース及ヒジーゲルノ兩氏カ千八百九十六年ニ文書中ヨリ蒐集シタル病例ハ百四十二過キサリシカ特色ナキヲ以テ公ニセラレサリシ症ノ極メテ許多ナルヲ思ハスンハアラス而シテ人類ノ之ニ感染スルハ多クハ本病ニ罹レル牝牛ノ煮サルカ或ハ煮沸十分ナラサル乳汁ヲ攝取スルカ爲メニシテ乳汁ノ外乳酪「バター」及ヒ乾酪モ亦傳染ノ媒介ヲ爲スコトアリ牝牛ノ乳房ニ生シタル水泡搾乳ノ際壓迫セラレタルトキハ傳染毒乳汁内ニ混入シ易シト雖モ乳汁ハ否ラサルモ傳染性ヲ有スルト云フ

榮養的傳染ノ外創傷傳染モ亦稀ナリトセス殊ニ指ニ負傷セル搾乳者病獸ヲ看護シタル廐夫獸醫及ヒ屠者ハ這般ノ傳染ニ罹リ易シ病獸ノ起臥シタル廐舍内ヲ跣足ニテ歩行スルモ亦危險ナリ往々病獸ニ使用シタル繃帶及ヒ布片ヨリ本病ニ感染スルコトアリ

本病ノ人ヨリ人ニ傳染スルモ亦其例ナシトセス

ブッセニユース及ヒジーゲル兩氏ノ説ニ據レハ人類ニ發生シタル百九十四例ノ口疫及ヒ蹄疫中六十七回(五四%)ハ乳汁ノ飲用ニ由リ三十九回(三一%)ハ病獸ニ觸接シタルカタメ、七回(五%)ハ皮

膚ノ創傷ヨリ六回(五%)ハ口腔ヨリ五回(四%)ハ本病ヲ患フル人類ヨリ感染シタリト云フ

空氣ノ媒介ニ依リテ本病ニ感染スルヤ否ヤハ疑問ナリ

本病牝牛間ニ蔓延シタルトキ人類ニモ發生スルハ贅スルヲ要セス此場合ニハ同一ノ牛乳ヲ飲用スルカタメ本病一家族内ニ流行スルコト稀ナラス専ラ牛乳ニテ鞠育セラル、小兒ハ殊ニ本病ニ罹ルノ危險アリ

**症候** 口疫及ヒ蹄疫ノ潜伏期ハ三日乃至四日ニシテ次テ發熱シ暫時ニシテ甚タシク紅腫シタル口唇齒齦頰及ヒ舌ノ粘膜稍稀ニハ硬口蓋及ヒ咽頭ニ黃色ノ水泡發生シ數日後ニハ水泡破裂シテ粘膜ニ潰瘍ヲ留ム此際患者ハ口内ニ灼熱ヲ覺エ往々口内粘膜甚タシク腫脹シテ嚙下困難起ルコトアリ唾液ノ產生ハ増加シ屢、口内ヨリ不快ナル臭氣發散ス數多ノ患者ハ更ラニ眼結膜及ヒ鼻粘膜ノ炎症ヲ起シ時トシテハ是等ノ部分ニモ水泡生ス之ト殆ント同時ニ指間及ヒ爪圍ニモ水泡萌生シ趾ニモ亦然リトス胸部又スチールリン氏ノ報告ニ據レハ陰部ニモ水泡發生シタル例アリ時トシテハ蕃薇疹様紅斑様或ハ蕁麻疹様ノ疹子發生スルコトアリ胃腸炎ノタメニ劇シキ下痢起ルハ往々遭遇スル所ニシテ殊ニ幼兒ニ在リテハ危險ナリ極メテ稀ナレトモ麻痺起リタル例アリ第二週日ノ半ハニ至レハ水泡乾燥シテ菲薄ナル痂皮ヲ生シ終ニ脱落スルモ癩痕ヲ貽スコトナシ本病ハ多クハ二週日ヨリ四週日ニ至ル間ニ完結スルモ身體ノ衰弱久時ニ互リテ恢復セサルコト時トシテ之アリ

**剖檢** 人類口疫及ヒ蹄疫ニ罹ルモ之カ爲メニ死亡スルハ稀有ニ屬スルヲ以テ其解剖的變化ハ尙未タ詳カナラスチュルン氏ハ腸粘腸ニ亞布答及ヒ潰瘍アルヲ發見セラレ又デムメ氏ハ腸ノ淋巴濾胞腸間膜腺竝ニ脾臟ノ腫脹及ヒ腎臟上皮ノ脂肪變性アリシヲ記述セラレタリ



診斷 口疫及ヒ蹄疫ヲ診斷スルニ當リテハ患者間接或ハ直接ニ病獸ニ接觸シタルコトアルヲ證明スルヲ殊ニ必要ナリトスベルタレリ一氏ハ患者ノ水胞内容物ヲ犢牛ニ接種シタルニ效

果アリタリト云フ  
口腔亞布答ト口疫トハ前症ニハ通常熱性全身症狀ナキニ據リテ鑑別スルヲ得ヘシ其他口腔亞布答ニ於テハ皮膚ニ水胞生スルコトナシ

潰爛性口内炎ニ於テハ齒齦膿壞ノ傾向盛ナリ

豫後 豫後ハ良好ニシテ患者ノカ爲メニ斃ル、ハ稀ナルノミ

療法 人類ノ口疫及ヒ蹄疫ニハ格魯兒酸加里五〇—二〇〇或ハ石灰水ヲ含嗽スルカ或ハ

之ヲ口内粘膜ニ塗布スルヲ可トス數多ノ醫師ハ硝酸銀ヲ以テ水胞ヲ腐蝕スルヲ賞美ス下痢ニ

ハ格魯兒酸加里若クハ石灰水ヲ二時間毎二十乃至十五立方仙迷宛内服セシム肢體ノ水胞ハ脂

肪ヲ擦入シタル後外科用棉花ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

豫防法トシテハ病獸ノ乳汁ノ飲用ヲ禁止スヘシ兎ニ角乳汁ハ善ク煮沸シタル後ニアラサレハ

飲用スヘカラス其他創傷ノ病獸ノ分泌物若クハ排泄物ニ汚染スルヲ避ケスンハアラス

第五節 放線菌病

*Actinomyces*

原因 放線菌病ハ殊ニ牛及ヒ豚ニ特有ナル傳染病ニシテ稀ニハ馬及ヒ其他ノ獸類モ亦之ニ

罹ルバーベス氏カ三疋ノ犬又ベール氏カ一頭ノ灰色熊ノ本病ニ罹リシヲ記載セラレタルカ如

キ則チ之カ例タリ鹿及ヒ象ニモ本病發生シタル例アリ

抑、放線菌ハ一種ノ絲狀菌ニシテ屢紛糾シ隨テ綿密ニ編合サレタル塊菌叢ヲ形成スル長キ菌絲

ヲ產生ス此菌叢ハ直徑約一密迷ニ達シ診斷上頗ル重要ニシテ其幼若ナルモノハ白色或ハ淡黃色ニシテ壓碎スルヲ得新鮮ナルトキハ殆ント粘液狀ノ小顆粒ナレト陳舊ナルモノハ硬固ト爲リ終ニ石灰化シテ堅キコト殆ント石ノ如キ顆粒ヲ形成ス此場合ニハ菌叢ハ多クハ淡褐色ニシテ殆ント黯色ヲ帶フ這般ノ小顆粒ヲ含有スル膿汁ハ放線菌ノ作用ニ由リテ生スルモノトス其顯微鏡像ノ極メテ特異ナル點ハ菌絲ノ末端ノ棍棒狀膨脹ニシテ是等ノ膨脹部ハ密接シテ羅列ス(第八百五十四圖)是レ恐ラク菌絲ノ受胎型ニアラスシテ變性型ナリ其他菌絲ハ崩壞シテ球菌狀或ハ杆菌狀體ト爲リ易キヲ以テ是等ノ形體アルヲ見テ直チニ混合傳染ト考フルヲ慎マサル可ラス放線菌ハグラムニ陰性ナリ

或人ノ放線菌ニ幾多ノ種類アルヲ指摘シタルハ正當ナリト謂フヘシ例之ジルベルシユミット氏ノ如キハ之ヲ三種ニ區別シタリボスレーム氏竝ニイスラエル及ヒウォルフノ兩氏ノ説ニ放線菌

ニハ好氣種ト嫌氣種トアリト云フ

放線菌ハ純培養シ難シト雖モ攝氏三十七度ノ溫度ニ於テ肉汁膠寒天及ヒ血清上ニ發育ス其抗

抵抗力ハ微弱ニシテ死滅シ易ク六十度ニ熱スルトキハ五分時間ニシテ殺戮セラル

牛及ヒ人體ニ現ハル、放線菌ハ恐ラク同一ニシテ少クモ人ヨリ獸類ニ移植スルヲ得ヘシ

人類ノ放線菌病ハ通常獸類ヨリ感染スルコトナシ隨テ嚴格ニ言ヘハ放線菌病ヲ動物傳染病ニ

編入スルハ決シテ正當ニアラス但シベツチェル氏ハ屠者ノ一徒弟放線菌病ニ罹レル獸類ノ膿

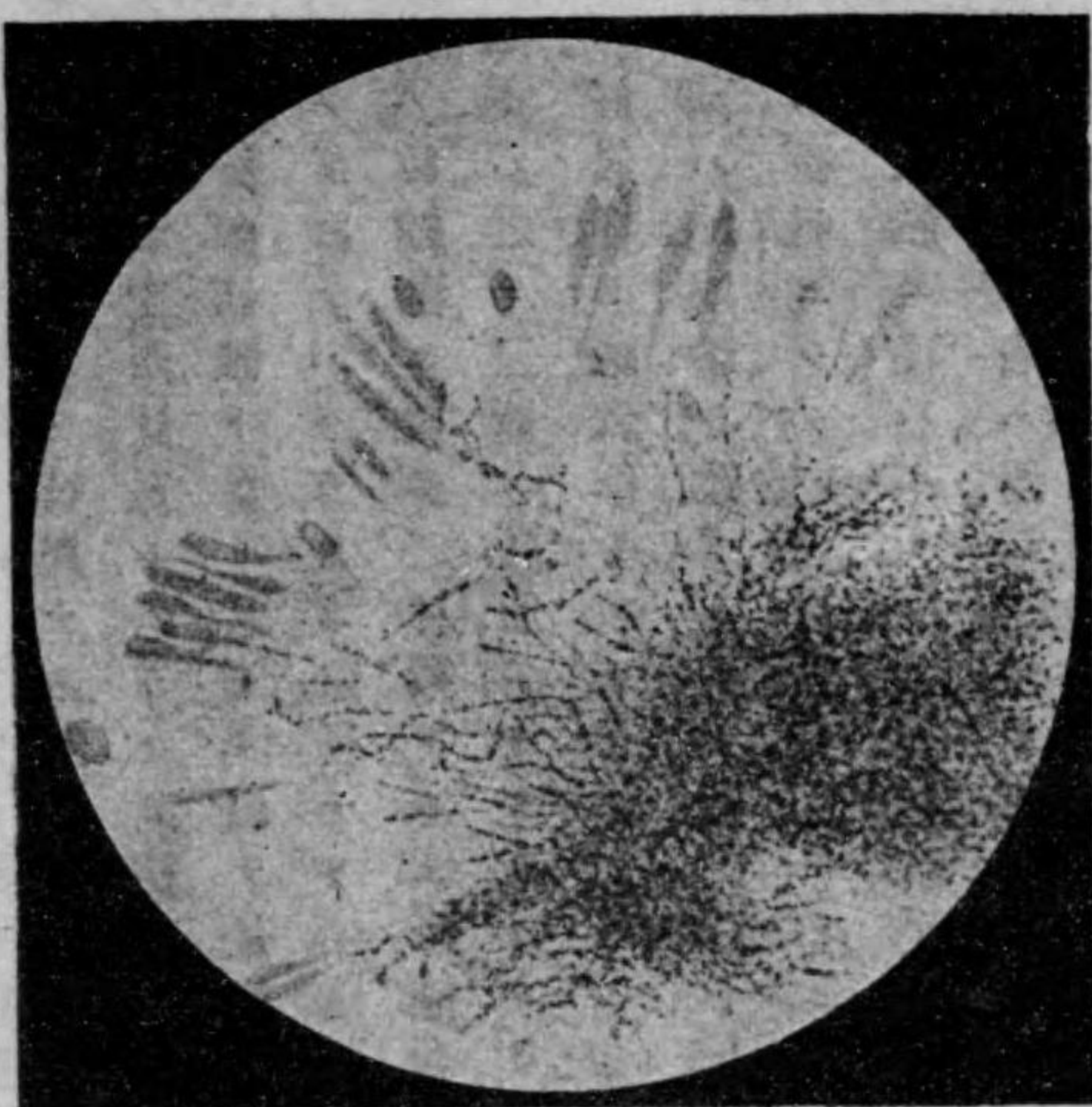
ヲ切開シタル後他人ノ忠告シタルニ拘ハラス刀ヲ十分ニ清拭セスシテ斜ニ銜ヘタルニ久シカ

ラスシテ自身放線菌病ニ罹リシ例ヲ報告セラレタリ

人類ノ放線菌病ニ傳染スルヤ放線菌ノ好ンテ棲息スル穀物ノ芒刺穂或ハ草ヲ口ニ含ミ齒牙ノ



第八百五十四圖



肺病ノ電ヨリ出テタル放線菌粒  
イロゲトル氏染色法油浸千倍  
(余カ實驗)

放線菌病ハ農夫ニ發生スルコト最多シ是レ農夫ハ傳染ノ機會ニ富メハナリ  
本病ニ罹ルハ多クハ二十歳以上四十歳以下ノ大人ナレトバウム氏ハ四歳九箇月ノ小兒ノ本病  
ニ罹リタル一例ヲ記載セラレタリ

間隙ニ挿入スルニ由ルヲ最モ頻數ナリトス其人ニシテ齶齒ヲ有スルトキニハ危險殊ニ大ナリ  
是レ齶齒アルトキハ屢々齶齒ニ創傷起リテ傳染ヲ促セハナリ往々扁桃腺咽頭若クハ食道粘膜或  
ハ胃腸ヨリ本病ニ感染スルコトアリシジュールマン氏ハ大腸内ニ停滯セル嚙下シタル骨ノ周圍ニ  
放線菌ノ發生セシヲ見タリト云フ呼吸器  
ヨリ放線菌ニ感染スルハ消化器ヨリスル  
モノニ比スレハ遙ニ稀ニシテ其發生スル  
ヤ穀物ノ穂ヲ氣道内ニ吸引スルカ(シユモ  
ル氏或ハ放線菌ノ附著セル齶齒ヲ嚙下ス  
ルニ由ル(イスラエル氏)エー、ミューレル氏  
カ記述セラレタル一例ニ於テハ放線菌ノ  
附著セル木片ニテ負傷シタル結果放線  
菌病起リタリ此他ニモ尙皮膚傳染ノ例ア  
リ  
生殖器ヨリ本病ニ感染スルヤ否ヤハ疑問  
ナリバラツ及ヒボンズノ兩氏ハ本病ノ人  
ヨリ人ニ傳染シタルヲ報告セリ

男子ノ放線菌病ニ罹ルヤ婦人ヨリモ多シフチサ氏ハ三百八十七例中二百四十八例(六四%)ハ男  
子ニシテ婦人ハ僅ニ百三十九例(三六%)ナリシヲ計算セラレタリ

症候

放線菌病ノ潛伏期ハ二週日乃至四週日ナレトエー、ミューレル氏ハ一回其二年ニ互リシ  
ヲ見タリト云フ身體ノ臟器ハ殆ント皆之カ侵ス所ト爲ル隨テ其病狀ハ千差萬別ナリ

放線菌病ハ先ツ外性内性及ヒ混合性ノ三種ニ區別スルヲ得ヘシイスラエル氏ハ本病ヲ其發生  
スル部位ニ隨テ顎部頭胸部及ヒ腹部放線菌病ト名ケラレタリ

外性放線菌病ハ外表ニ位スル軟部及ヒ骨ノ炎症ナリレド氏ノ說ニ骨ノ放線菌病ハ多クハ軟  
部ヨリ侵入スルモノニシテ血液ヨリ感染スルハ稀有ナリト云フ此炎症ハ膿壞シ且瘻管ヲ形成  
スルノ性頗ル盛ンニシテ治癒シテ癍痕ヲ結成セントスル性極メテ微弱ナリ這般ノ變化ハ下顎  
部ニ發生スルコト比較的ニ多ク該部ノ皮膚ニハ疼痛多クハ極メテ微弱ニシテ硬キコト板ノ如  
キ腫脹生シ漸次ニ軟化シ波動起リ終ニ外方ニ潰決ス下顎骨ニハ時トシテハ骨膜炎起リ又時ト  
シテハ骨膨大ス附近ノ淋巴腺ハ多クハ餘波ヲ被ルコトナシ

アムメントルプロヴジグ、ミューレル及ヒネラトンノ諸氏ハ乳房ノ放線菌病ヲ記述セラレタ  
リ

内性放線菌病ハ特發病即チ原發病ナルコトアリ或ハ外性放線菌病ニ續發スルコトアリ然レト  
モ原來放線菌病ハ益々蔓延スル傾向著キヲ以テ外性放線菌病ノ反テ原發内性放線菌病ニ續發ス  
ルモ亦決シテ稀有ニアラス蓋シ身體ニハ放線菌病ノ發生セサル内臟殆ント無シト謂フヘシ往  
往最初疾ニ罹リタル一臟器靜脈内ニ破潰淋巴管内ニ破ル、ハ殆ント無シ)シテ病芽四方ニ散亂  
スルカタメ本病他ノ臟器ニ轉移スルコトアリ

男子ノ放線菌病ニ罹ルヤ婦人ヨリモ多シフチサ氏ハ三百八十七例中二百四十八例(六四%)ハ男  
子ニシテ婦人ハ僅ニ百三十九例(三六%)ナリシヲ計算セラレタリ



口内ニ於テハ放線菌病口唇及ヒ頰ノミナラス舌ニモ發生シタル例アリ此場合ニハ屢舌ニ結核  
 結節及ヒ護膜腫ニ彷彿タルモ軟化シテ破潰スル性少キ硬キ結節生ス往々顎下腺或ハ耳下腺ノ  
 如キ唾液腺侵サル、コトアレト疾特發スルハ稀有ニ屬ス總テ是等ノ場合ニハ先ツ炎竈生シ次  
 テ化膿シ加之瘻管生スルコト屢之アリ  
 鼻咽腔モ亦放線菌病ノ所在ナルコトアリベック氏ハ鼓室ノ放線菌病ヲ記述セラレタリシカ此  
 ハ恐ラク歐氏管ヲ經由シテ鼓室内ニ侵入シタルモノタリ甲狀腺ノ放線菌病後ニ粘液水腫起リ  
 タル例アリ  
 呼吸器ノ放線菌病ハ稀有ニアラスエル、ホフマン氏ハ喉頭ノ放線菌病ヲ實驗シタリト云フ氣管  
 枝ノ放線菌病ハ腐敗性氣管枝炎ノ病狀ヲ現スルコトアリ肺臟ノ放線菌病ニハ屢慢性肺浸潤肺  
 膿瘍或ハ肺壞疽ノ微候アリ往々肺放線菌病ノ經過中ニ結核起ルコトアリ余ハチューリッヒノ「クリ  
 ニック」ニ於テ這般ノ實例ヲ實驗シハ「ベル」氏ヲ勸誘シテ報告セシメタリ時トシテハ放線菌病  
 肺臟ノ内部ニ占地シ稽留スル熱又時トシテハ痰中ノ放線菌粒ヲ以テスル外ニハ之ヲ徵知スル  
 ニ由ナシ肺ノ放線菌病ニ罹ル部分ハ大抵ハ下葉ナリトス肺放線菌病ニ放線菌病性肋膜炎ノ伴  
 發スルハ稀有ニアラスシテ肋膜炎ノカタクハ肥厚シテ其間ニ膿竈ヲ藏シ或ハ漿液性血  
 液性若クハ膿性滲出物生ス是等ノ滲出物ハ屢早晚外方ニ潰決スル肋膜炎周圍放線菌病竈ニ連續  
 ス  
 化膿性縱隔膜炎モ亦放線菌病ノ續發症ナルコトアリ  
 時トシテハ心囊及ヒ心筋放線菌病ノ侵ス所ト爲ル  
 腸ノ放線菌病ハ其例ニ乏シカラスシテ之カタクハ侵サル、コト比較的ニ頻數ナリシハ蟲樣突起

ト盲腸トナリ而シテ是等ノ場合ニハ腹壁ヲ穿通セントスル傾向アルヲ特色トセル盲腸周圍炎  
 ノ症狀起リタルコト稀ナラサリキ余ハ曾テ「ハーベル」氏ヲ勸誘シテ放線菌病性蟲樣突起周圍炎  
 ノ一例ヲ公ニセシメタリ「シューマン」氏ハ大腸ニ放線菌腫精ハシク之ヲ言ヘハ放線菌病ニ基因  
 シタル圓形細胞ヨリ成レル腫瘍アルヲ發見セラレタリ腸放線菌病ニ腹膜炎ノ伴發スルハ稀有  
 ニアラスシテ之カタクハ腹膜癒著シ膿竈外方或ハ内臟例之膀胱ニ破潰ス此場合ニハ腎臟周圍炎、  
 大腰筋周圍炎及ヒ直腸周圍炎モ亦發生スヘシ腸放線菌病ノ經過中ニ腸閉塞及ヒ吐糞症起リシ  
 コト時トシテ之アリヘルレル及ヒ「バギルム」ノ兩氏ハ腸放線菌病腸室扶斯ノ病狀ヲ呈シタルヲ  
 見タリト云フ  
 時トシテ肝臟脾臟或ハ腎臟ニ放線菌病性膿瘍生スルモ此ハ通常續發性放線菌病ニ外ナラスイ  
 スラエル及ヒ「パウム」ノ兩氏ハ原發腎臟放線菌病ノ實例ヲ記述セラレタリステ「トン」氏ノ實驗ハ  
 疑ハシ  
 ノイホキゼル氏ハ「イスラエル」氏カ手術ヲ施サレタル婦人、生殖器ノ放線菌病ヲ報告セラレタリ  
 シカ其原發症ナリシカ將タ續發症ナリシカハ終ニ決定スルヲ得サリキ  
 脊椎前放線菌病ハ篤疾ニシテ脊柱ヲ廣ク破壊スルコト稀ナリトセス  
 往々腦及ヒ腦膜ニ放線菌病發生スルコトアリテ「ブルキン」及ヒ「ドク」ルウエーンノ兩氏ハ文書  
 ヲ涉獵シテ之カ十一例ヲ蒐集シ之ヲ補フニ自己ノ實驗ニ係ル一例ヲ以テセラレタリ此症ハ大  
 抵ハ續發性ニシテ遠隔シタル臟器ヨリ轉移スルカ或ハ附近ヨリ直接ニ蔓延シタルモノトス其  
 臨牀的症狀ハ硬腦膜炎膿性腦膜炎腦髓炎、腦膿瘍或ハ腦腫瘍ノ夫レニ同シ  
 外性放線菌病ニ内性放線菌病續發シ或ハ之ニ反シテ内性放線菌病ニ外性放線菌病伴發シタル



トキハ是レ混合性放線菌病ナリ此場合ニハ初メヨリ病像ヲ觀察スル機會ナキトキハ孰レカ原病ナリヤ頗ル決定シ難キカ或ハ全ク不可能ナルコトアリ

本病ハ持續時間ノ長短ニ隨キテ急性亞急性性及ヒ慢性ニ區別セサル可ラス然レトモ本病ハ概シテ慢性ニ陥リ易クシテ十三年以上ニ彌リタル例アリ

本病ハ醫療ヲ加ヘサルモ癒ユルコトアリト雖モ屢敗血膿毒症狀起リテ患者之カ爲メニ死亡ス或ハ患者甲若クハ乙臟器ノ重キ官能障害ノタメニ斃ル、コトアリ又或ハ永續スル化膿ノタメニ澱粉様變性起リテ患者ノ命ヲ奪フコトアリ

**剖検** 放線菌病ノ解剖的變化ハ圓形細胞ヨリ成リタル炎竈ナルコト最モ多クシテ炎竈ハ處處ニ於テ巨大細胞ヲモ含有シ且軟化或ハ脂化スル傾向極メテ盛ンナリ隨テ其内ニハ多クハ數多ノ膿竈アリテ其膿汁ハ放線菌叢或ハ放線菌顆粒ヲ含有スルヲ特色トス一ニ放線菌腫ト稱セラル、堅固ナル腫瘍ノ發生シタル例ハ遙ニ稀ナリ顯微鏡下ニ檢査スルニ此腫瘍モ亦圓形細胞ノ集合シタルモノヨリ成ルヲ以テ數多ノ醫師ハ之ヲ肉芽腫トモ稱シタリ放線菌叢ノ存在ハ放線菌腫ニモ特色タリ

**診斷** 放線菌病ノ症狀ハ頗ル他ノ疾病ト誤リ易シ故ニ放線菌病ノ唯一ノ決定的徵候ハ放線菌顆粒ノ存在ニシテ此顆粒ヲ發見スルヲ得サル限リハ其症ノ放線菌病ナルハ疑ハシ

**豫後** 放線菌病ハ毎ニ篤疾ト考ヘサル可ラス手術ヲ行フニ由ナキ内臟侵サレタル場合ニハ殊ニ然リトス

**療法** 放線菌病ノ治療法ハ可能的外科的ナラサル可ラス其方法ハ放線菌膿竈ヲ切開シテ病的組織ヲ悉ク搔抓スルニ在リ而シテ手術ハ之ヲ行フコト早キニ準シテ結果益、良好ナルノ望ミ

アレトモ既ニ轉移起ルニ及ンテハ之ニ反シテ治療期シ難シジャコノスキー氏ハ放線菌病性肺空洞ヲスラ切開シテ本病ヲ癒ヤシタル例ヲ報告シ又ケルレル氏ハ放線菌病性膿瘍ヲ切開セラレタリ但シ其效果ハ一時ニ過キサリキ

内服藥ハ效能皆無ナルカ或ハ極メテ疑ハシ就中最モ賞美セララル、ハ沃度加里一〇〇ト二〇〇〇一一日三四五立方仙ニシテジュリンカ氏ハ此藥物ハ能ク放線菌ノ發育ヲ阻止スルヲ主張セラレタルモブルツ氏ハ之ヲ否定シタリモル氏ハ水銀劑及ヒ砒石劑ヲモ試用セラレタリフリ

ドドリヒ氏ハツベルクリンヲ注射シタルモ豫期ノ如ク全ク無効ナリシト云フ

豫防法ハ第一ニ草及ヒ穀物ノ穂ヲ口ニ銜ミ或ハ之ヲ齒間ニ插入スル弊習ヲ廢止スルニ在リ放線菌病ヲ患フル獸類ヲ取り扱フモノハ病獸ニ觸レタル後ニハ必ラス其手ヲ十分ニ消毒セサル可ラス



五改訂愛氏内科全書 終

五改訂愛氏内科全書索引 (排列ハ發音順ニヨル)

ア

- 嘔氣
- 神經性—— 2四六九
- 歇私的里性—— 3一四〇五
- 壓神計 3二六〇
- 操人形現象 3二二九九
- 亞米利加病 3一三五二
- 惡性淋巴性皮膚病 4二〇〇
- アテローム 1四七五
- アテトシス 3二二九四
- アテニー 4二二九
- アツテキスン氏病 4一
- アメバ・コリ 2七八二
- アルコホルル肝 2〇二八
- アルカプトン尿 4四九七
- アロヒエイリ 3二七〇
- アロヒエステジ 3二七〇
- アグラフキ 3八五四
- アクロメガリ 3一五八三
- アクロテキニア 3二六七
- アクロパルエステジ 3二四八四

索引

- アブラキシ 3八五八
- アゴラフォビー 3一三五八
- アキネジス 3一三六三
- アキネジス・アルゲラ 3一三八七 3一四三八
- アパスキ 3一三八七 3一四三八
- アスタズキ 3一三八七 3一四三八
- アカントリシス 3一七二九
- アングナ 2六〇
- アンサン氏—— 2七四
- アンカイルラ・インテステイナリス 2八八五
- アンケイラ・ステルコリス 2二八八
- アンチチレオイザン 3一五七五
- アマジ 3八五六
- アノフェレス屬 4九七三
- アインホルン氏ノ醗酵糖量計 4四〇七

イ

- 陰性靜脈搏 1二一八
- 胃切開術 2二二
- 胃腸切開術 2 三九二
- 胃固定術 2一八七
- 胃運動力ノ試験 2二〇四

- 胃内容物ノ検査 2二〇九
- 胃中ノ酸度檢定 2二一五
- 胃中ノ鹽酸檢定 2二二七
- 胃中ノ有機酸類檢査 2二二六
- 胃中ノ醗酵素檢査 2二三〇
- インザカン試験 2二七八
- 胃排出法 2二二〇
- 胃曲注管 2二九六 2四二五
- 胃内透照法 2三八七 2四一六
- 胃唧筒 2四二八
- 一部性變性反應 3二八
- イノスコビー 1一七七
- 胃腸諸病 2二〇三
- 胃酸過多症 2二二七
- 胃酸乏少症 2二二七
- 胃酸缺乏 2二二八
- 胃酸過多症(神經性) 2四九五
- 胃乳糜缺乏症 2二八五
- 胃鹽酸乏少症及鹽酸缺乏症(神經性) 2五〇〇
- 胃液分泌過多症(神經性) 2五〇二
- 胃液缺乏症(神經性) 2五〇六
- 胃炎



急性加答兒性—— 2三五六  
慢性加答兒性—— 2二七一  
增殖性慢性加答兒性—— 2二七七  
顆粒性慢性—— 2二七八  
乳糖性慢性—— 2二七八  
茸腫狀慢性—— 2二七九  
萎縮性慢性—— 2二八〇  
單純慢性加答兒性—— 2二八二  
鹽酸過多性慢性加答兒性—— 2二八二  
消化不真性慢性加答兒性—— 2二八三  
酸性—— 2二八四  
化膿性—— 2三〇二  
蜂窠織性—— 2三〇三  
限局性化膿性—— 2三〇四  
纖維性—— 2三〇九  
膜樣—— 2三〇九  
中毒性—— 2三〇九  
膿質性—— 2三一  
胃癆—— 2二八〇  
胃糜爛(出血性)—— 2二九一 2三三二  
胃瘻(內性)—— 2三三五  
胃擴張—— 2三九七  
無力性—— 2四一〇  
胃ノ變替性限局的膨出—— 2四一〇  
胃ノ蠕動的不穩—— 2四一〇

胃下垂—— 2四三三  
胃ノ疊積症—— 2四四三  
胃ノ變形—— 2四四三  
胃ノ異物—— 2四四六  
胃粘液膜腫—— 2三九七  
胃腔動植物性寄生物—— 2四四九  
胃破裂—— 2四五二  
胃軟化—— 2四五三  
胃腸消失—— 2四五六  
胃ノ諸變性—— 2四五七  
胃血管ノ變常—— 2四五八  
胃神經性擾動症—— 2四七二  
胃運動過劇症—— 2四七三  
胃弛緩(神經性)—— 2四八二  
胃痛  
神經性—— 2四八五  
歇私的里性—— 3一四〇七  
遺傳微毒性掌骨炎—— 4二〇四八  
遺傳微毒性インファンチリスマス—— 4二〇五二  
異常飢感—— 2四九四  
遺尿—— 2二七〇  
痙攣性—— 2二七六五  
遺精—— 2二七八七  
尿通—— 2二七九〇  
便通—— 2二七九〇

萎黃病—— 4七六  
熱帶—— 2八六六  
異味嗜好—— 2四八八  
歇私的里性—— 3一四〇三  
異臭汗—— 3一八一三  
衣蟲—— 3一九三九  
インフルエンツア菌—— 4八八八  
萎縮  
胃—— 2二七八  
脊髓性進行性筋—— 3六六六  
筋病性進行性筋—— 3一五九九  
壯年性進行性筋—— 3一六一七  
幼年性進行性筋—— 3一六二四  
神經性進行性筋—— 3一六三〇  
假性麻痺性筋—— 3一三四五  
進行性半側顏—— 3一四九七  
心臟—— 1三三六  
惡液性心臟—— 1三三七  
求心性心—— 1三三九  
遠心性心—— 1三三九  
單純性心—— 1三三九  
真正腎—— 2二五二四  
顆粒性腎—— 2二五二九  
腦—— 3一二五  
進行性板狀—— 3一五〇五

イ・ロ

皮膚—— 3一八六七  
皮膚色素—— 3一八六七  
老人性皮膚—— 3一八九三  
後天性瀰漫性皮膚—— 3一八九四  
先天性皮膚—— 3一八九五  
間歇性毛—— 3一八八七  
急性黃色肝—— 2二〇六六  
小兒性核—— 3八二二  
爪ノ—— 3一八八八  
英吉利病—— 4五〇三

遠隔雜音—— 1八三  
咽頭加答兒—— 2九三  
慢性—— 2九三  
側壁慢性—— 2九六  
慢性紅斑性—— 2九七  
咽頭炎  
顆粒性慢性—— 2九七  
白血病性口内炎及—— 4一九九  
特發性急性蜂窠織性—— 4一〇九五  
嚥下急迫症—— 2六九  
嚥下疼痛—— 2二五三  
嚥下困難  
戲弄性—— 2二〇七  
炎症性—— 2二五三  
麻痺性—— 2二九九  
嚙嚙性—— 2二九九  
痙攣性—— 2二〇一  
液囊震顫—— 2二四三  
延髓球炎(急性)—— 3七七三  
延髓新生物—— 3七七四  
延髓ノ動物性寄生物—— 3七七七  
延髓空洞症—— 3七七七  
延髓壓迫症—— 3七七八

瘰癧  
肺—— 1一〇二二  
肺性肺—— 1一〇四  
氣管枝性肺—— 1一〇六  
脈管性肺—— 1一〇八  
血性肺—— 1一〇八  
腺—— 2二二二  
相對性—— 3一四九〇  
膿漏—— 3一六九一  
豌豆羹汁便—— 4一三六  
エストランデル氏手術—— 1一三〇〇  
エストパツハ氏蛋白計—— 2一三八五  
エルプ氏徵候—— 3一三三八  
エルテル氏減脂療法—— 4三三一  
エリトロメラルギア—— 3一四八〇  
エリトロチトーゼ—— 4一四七  
エリチマ・テレブンス—— 3一七四四  
エツプシュタイン氏減脂療法—— 4三三一  
エーレルヒ氏アツオ反應—— 4五六七  
エンド・アマバ・ヒストリチカ—— 4一三三二

オ・カ

黃色變肝期—— 1九八八  
黃疸—— 2九一七  
綠色—— 1一四七



鬱堆——2九一八  
 瀰散性——2九三三  
 アカテクト性——2九三三  
 血性——2九三三  
 血球溶解性——2九三三  
 加答兒性——2二六四  
 胃十二指腸——2二六六  
 月經——2二六八  
 情緒——2二六八  
 黃疸ノ早期診斷法——2九四八  
 黃癍——3一九五三  
 黃熱——4一三三三  
 黃視症——4九〇八  
 嘔吐  
 神經性——2四五九  
 爛草——2二九七  
 綠青——2二九七  
 歇私的里性——3一四〇六  
 早晨——2五五  
 酒客早晨——2二八二  
 橫隔膜歇兒尼亞——2一五七  
 構隔膜陰翳——3六九  
 溫神計——3二六五  
 四爪——3一八九〇  
 オイシツム性口内黴菌症——2三八

力

ガキネット——4九八四  
 オブソニン——4二二一  
 潰瘍  
 急性心臟——1一五  
 食道圓形——2一六〇  
 圓形胃——2一三五  
 加答兒性粘液膜——2五四九  
 加答兒性腸——2五四八  
 濾胞性腸——2五四九  
 圓形腸——2六二六  
 神經性——3一四九四  
 結核性喉頭——4一五三〇  
 癩性——4一七七二  
 硬性下疳——4一九〇七  
 肝臟搏動——1七六  
 肝臟靜脈々搏——1二一九  
 肝臟諸病——2九一七  
 肝臟變位——2一五六  
 肝臟炎  
 急性——2九八一  
 化膿性——2九八四  
 肝包膜炎——2九七五  
 黴毒性——4二〇〇二

肝咳——2一〇〇四  
 肝肺癰——2一〇〇八  
 肝臟チルローゼ——2一〇一七  
 肝チルローゼ  
 ランネック氏——2一〇一九  
 普通——2一〇一九  
 門脈性——2一〇一九 2一〇二八  
 膽汁性——2一〇三三 2一〇三六  
 動脈硬化性或ハ老人性——2一〇三四  
 動脈性——2一〇三三  
 黴毒性——2一〇三九  
 肝ノ色素チルローゼ——2一〇四〇  
 咯血——1八五四  
 鬱血性——1一三八一  
 フォラリア性——1八六〇  
 神經性——1八六一  
 歇私的里性——1八六二 3一四〇九  
 夏日加答兒——1五六九  
 夏日斑——3一八三六  
 假性跪坐呼吸——1七七〇  
 假性分利——1一〇一三  
 假性硬化——3五〇八  
 假痘——4七六  
 出血性——4七二四  
 膿胞性——4七二四

天胞瘡性——4七二五  
 氣腫性又膨脹性——4七二五  
 壞疽性——4七二六  
 灌漑期——1九八九  
 活栓トロアカール——1二八五  
 鷺口瘡——2三六  
 加答兒性侵蝕——2七二  
 高性扁桃腺角質增加——2九一  
 痛症候——2六五二  
 痛  
 肺臟——1一四一  
 腎——2一五七二  
 食道——2一六二  
 肝——2一〇〇七  
 脾——4六二  
 碎——2二六〇  
 粟粒肺——1一四四  
 膽道——2一八三 2一八六  
 膽囊——2一八四  
 腸——2六三九  
 頭蓋腔内ノ——3一〇四一  
 胃——2三五四  
 氣管枝ノ——1七九七  
 腹壁——2三六二  
 膀胱——2七四五

肋膜——1一三五七  
 灰色變肝期——1九八八  
 蠅蟲——2八二四 2一八七 2一三六九  
 海——2八三四  
 猫——2八三四  
 火酒肝——2一〇二八  
 願望觀念——4一四四三  
 顔面畸形——3一四九七  
 顔面肥大(半側性)——3一五〇五  
 疥癬——3一九三三  
 マラフキン——3一七五三  
 諾爾威——3一九三二  
 顔面痙攣——3一四八  
 顔面痛——3一八八  
 フォーザイシル氏——3一八八  
 顔面神經切斷術——3一五五  
 顔面現象——3一四〇〇  
 疥癬蟲——3一九二三  
 疥癬痘——4七九三  
 頑癬——3一九七二  
 汗疹——3一八一六  
 褐色斑——3一八三五  
 外傷性——3一八三八  
 溫熱——3一八三九  
 中毒性——3一八三九

子宮——3一八四〇  
 惡液性——3一八四〇  
 妊娠性——3一八四〇  
 蚊——3九四四  
 含核赤血球——3一七  
 壞血病——4二六七  
 小兒——4二八九  
 關節炎  
 急性尿酸性——4三四二  
 多發性急性尿酸性——4三四四  
 不定性急性尿酸性——4三四四  
 慢性尿酸性——4三四八  
 乾性慢性癱瘓質新性——4八三七  
 畸形性——4八四四  
 貧者——4八四五  
 痲疾性——4一八一〇  
 間歇熱——4九九三  
 後退——4九九四  
 連發性——4九九四  
 重復——4九九四  
 還種法——4七八二  
 廻首雜音——4一三五  
 牙關緊急——4一三五  
 角弓反張——3七二八 4一三五五  
 貨幣痰——4一五八二



過刺腎 2二六六  
 眼球突出症 3一七  
 眼瞼下垂(歇私的里性) 3一三九八  
 眼筋強直(歇私里性) 3一三九九  
 完全電氣變性反應 3二八  
 外性肝癰 2二〇〇六  
 外翻鉤足 3一三七  
 外傷性反應 4一四三九  
 感覺錯誤 3五八六  
 化膿性肝靜脈炎 2二四九  
 ガストロキンジス 2五〇二  
 カタレプシー 3一三四一  
 ガラクト尿 4一〇四四  
 ガベット氏法 4一五七四  
 ガフキ(氏)結核菌員數表 4一五七五

キ

菌血症 1一  
 狹窄  
 僧帽瓣口 1一〇二  
 瓣膜口ノ關係的 1六四  
 先天性肺動脈口 1一三三  
 大動脈及動脈圓錐部 1一三六  
 大動脈口 1九〇  
 右靜脈口 1一四四

先天性大動脈幹 1五四三  
 大動脈口ノ先天性 1一三〇  
 右靜脈口ノ先天性 1一三一  
 真正心臓 1一二六  
 肺動脈口 1一三二  
 肺動脈圓錐・肺動脈口或ハ肺動脈ノ  
 先天性 1一三九  
 腸 2六七四 2六九一  
 食道 2一〇二  
 壁内性食道 2一〇二  
 筋肉性幽門 2二七九  
 氣管枝 1七八六  
 軟骨性氣管枝 1七八七  
 肺動脈 1一三六八  
 狹窄及閉塞(大動脈) 1五三六  
 球瓣膜搏撃 1一三〇  
 球形増殖 1一三九  
 梗塞  
 出血性肺 1一四二  
 出血性咯血性 1八六〇  
 楔狀腎 2二六四三  
 白色腎 2二六四三  
 氣腫  
 心囊 1一三四  
 心囊水 1一三四

老性 1八八八  
 氣胸性肺 1八八三  
 代償性肺 1八八四  
 實體性肺 1八八四  
 水腫性肺 1八八八  
 先天性肺 1八九一  
 葉間性肺 1九一七  
 氣胸 1一三〇五  
 水 1一三〇六  
 橫隔膜下膿 1一三三六  
 永久閉口性 1一三二八  
 永久閉口性 1一三二八  
 瓣狀 1一三二八  
 再發性 1一三三四  
 偽性 1一三三七  
 血 1一三五三  
 氣尿 4五〇二  
 氣管枝炎  
 加答兒性 1六七一  
 氣管 1六七一  
 毛細 1六九三  
 纖維性 1七三八  
 擬膜性 1七三八  
 氣管枝加答兒  
 急性大 1六八五

急性毛細 1六九三  
 慢性 1七〇三  
 乾性 1七〇六  
 染エオゾン性 1七二二  
 氣管枝擴張 1七五八  
 後天性 1七五八  
 先天性 1七六〇  
 圓柱狀 1七六〇  
 紡錘狀 1七六一  
 念珠樣 1七六一  
 囊狀・空洞狀 1七六一  
 肥大性 1七六二  
 瘦削性 1七六二  
 代償性 1七六五  
 肺萎縮性 1七六七  
 氣管枝漏  
 單純 1七〇七  
 漿液性 1七〇七  
 氣管枝膿漏 1七〇八  
 氣管枝塞子(菌性) 1七〇九  
 氣管枝凝固物 1七四六  
 纖維性 1一〇〇二  
 氣管枝石 1七六二 1七九九  
 氣管枝菌病(オイヤチュール性) 1七九九  
 氣管枝螺旋 1八一九

氣管枝喘息狀態 1八二六  
 氣管枝淋巴腺ノ疾病 1八四八  
 氣管枝圓柱狀體 1一〇〇五  
 氣管枝格魯布 1七三八  
 氣管氣管枝塵埃腺 1八五三  
 氣管切開術 4一四八二  
 奇脈 1三二一  
 狹心痛 1四五四  
 歇私的里性 3一四一〇  
 恐聲症 1六六四  
 恐處病 2二八八  
 恐河症 3一三五九  
 恐塵症 3一三五九  
 恐星症 3一三三九  
 恐病症 3一三五九  
 恐閉症 3一三五九  
 恐水病 4二〇六七  
 歇私的里性 3一四〇四  
 假性 4二〇六九  
 恐人症 3一三五九  
 恐犬病 4二〇六三  
 桁狀變性 1七六一  
 吸氣胸廓(持續的) 1九〇五  
 吸蟲 2八二三  
 胸癢 1一三〇〇

胸腺諸病 1一三九三  
 胸腺消耗 1一三九三  
 胸腺肥大 1一三九四  
 胸腺死 1一三九四  
 胸腺新生物 1一三九五  
 巨胃 2四二二  
 巨大エヒロリヒユス 2八八六  
 巨頭症 3一〇九  
 飢感亡失 2四九四  
 蟻 2八三四  
 金線脈 2一五三三  
 嗅覺過敏症 3二八一  
 歇私的里性 3一四〇二  
 嗅覺脫失症 3二八一  
 嗅覺變常 3二八四  
 歇私的里性 3一四〇二  
 共働機障礙 3五九二  
 遺傳性 3六九八  
 小腦性遺傳性 3七〇三  
 筋肉攣縮(小束性) 3六七五  
 筋肉狂亂 3一七三三  
 筋肉譫妄 3一七三三  
 筋腫  
 胃 2三九七  
 腸 2六五六



筋肥大

- 假性—— 3二六〇二
- 家族性假性—— 3二六〇四
- 眞性—— 3二六三五
- 筋性蠟樣梗屈 4二三四三
- 筋病性顔貌 3二六二五
- 筋炎
- 多發性—— 3二六三八
- 進行性化骨性—— 3二六四四
- 微毒性纖維性—— 4一九七二
- 筋強直 3二六四八
- 痲痺質斯性—— 4八六九
- 筋萎縮性側索硬變 3六八九
- 基底大脳神經節 3八七〇
- 起行不能 3二六二二
- 弓位 3一四一九
- 糾髮病 3一六八三
- ホーランド—— 3一九三七
- 魚鱗癬 3一八四九
- 單純—— 3一八五〇
- 蛇皮—— 3一八五一
- 先天性—— 3一八五五
- 牛痘接種 4七七二
- 牛痘接種ノ沿革 4七七二
- 牛心 1三四一 三五九

ク

- 菌血症 4八八二
- 求底球形疹 4一五八二
- 龜頭包皮炎 4一八〇二
- ギョントツブルカ氏試験 2二二九
- 空氣室 1七三五
- 空腸炎及迴腸炎(急性加答兒性) 2五三一
- 空洞現象 4一五七一
- 拘攣症 3一七九
- 訓練代償療法 3六二四
- 佝僂病 4五〇三
- 佝僂病念珠 4五二二
- 佝僂病的胸形 4五二三
- 佝僂病性扁平骨盤 4五二五
- 佝僂病性硬化 4五二二
- クルシユマン氏假面 1二二三八
- クルーゼ赤痢菌 4二二二九
- クリオスコピー 1二二七二 2二四二八
- クリセリン浣腸 2五六一
- クリオーセ 3五一八
- クリア筆 3五一八
- クラーセ
- 外傷—— 2八九〇
- 神経痛性—— 3五八三

内臓

- クワンクオー氏症狀 3六〇五
- クラールケ氏柱 3三七六
- クウォステーク氏徴候 3二二四〇
- クレチニスムス 3一五三六
- クレイグス氏病 3一五四〇
- クレイフェス氏徴候 3一五五二
- ケアルニリー氏小體 4七三四

ケ

血塞

- 心内膜炎性—— 1一〇
- 心臓—— 1二三五
- 肺動脈—— 1三六八
- 腸間膜動脈—— 2九二二
- 腸間膜靜脈—— 2九二五
- 門脈—— 2二二七
- 腎靜脈—— 2二六四六
- 腎動脈—— 2二六四五
- 大動脈—— 1五四九
- 肝靜脈—— 2二二四九
- 腸動脈—— 3九六五
- 膿囊—— 3一四二
- 心腫—— 1三三二

硬腦膜

- 硬腦膜—— 2一七〇
- 血管腫
- 肝—— 3一三三
- 腸—— 2六五六
- 脾—— 4六四
- 血痰 1八六七
- 血尿 2二九九八
- 血汗 3一八一六
- 血胸 1一三五三
- 血液圓柱 2二四〇六
- 血液試験法(タイヒマン氏) 2二四六 2二四〇八
- シエーンバイン及アルマン氏—— 2二四七
- ヘルレル氏—— 2二四七 2二四〇七
- 血液溶崩(尿毒性) 2二四二四
- 血液病 4七六
- 血液中毒 4八七一
- 血球不同症 4八一
- 血球過多症 4一四七
- 血友病 4二九四
- 血中葡萄糖過多 4四二〇
- 血色素尿
- 發作性—— 4二五三
- 非發作性—— 4二六三
- 頸部交感神經興奮症 3二四五二
- 頸靜脈ノ呼吸の膨脹 1一七 1三二

頸腫大

- 頸腫大 3三六四
- 瘰癧 4一〇五五
- 瘰癧
- 聲門—— 1六四九
- 斷乳性聲門—— 1六五〇
- 音聲の聲門—— 1六五七
- 氣管枝—— 1八〇二
- 食道—— 2二〇〇 3一六〇
- 幽門—— 2四七五
- 膀胱—— 2一七六四
- 腸—— 2八八九
- 噴門—— 2四七四
- 點頭—— 3二七二
- 點頭的—— 3二六二
- 肩胛舉筋ノ—— 3一七五
- 有痛性・強直性—— 3一七九 3一七五
- 瞬目性—— 3一五一
- 顔面—— 3一四四
- 間代性顔面—— 3一四四
- 模擬顔面—— 3一四八
- 強直性顔面筋—— 3一五五
- 三叉神經—— 3一五七
- 舌咽神經—— 3一六〇
- 咽頭—— 3一六〇
- 副神經—— 3一六一

舌下神經

- 舌下神經—— 3一六六
- 項ノ頭筋—— 3一六八
- 下斜頭筋—— 3一六九
- 頭夾板筋—— 3一六九
- 橫膈膜—— 3一七〇
- 間代性橫膈膜—— 3一七〇
- 菱形筋—— 3一七五
- 強直性橫膈膜—— 3一七三
- 大胸筋—— 3一七五
- 三角筋—— 3一七六
- 腹筋—— 3一七七
- 腓腸—— 3一八〇
- 靴工—— 3二二八 3二六二
- 乳母—— 3二二三
- 電信技手—— 3二六二
- タイプライター扱人—— 3二六二
- 洋琴彈手—— 3二六二
- 裁縫師—— 3二六二
- 跳躍—— 3二〇五
- 強直症胃—— 2四七四
- 虎列拉—— 4二九二
- 流行性項—— 4一三七三
- 瘰癧性便秘 2八九一
- 瘰癧尿 3一四一〇
- 眩暈 3一三三



頭痛性—— 3二〇六  
 喉頭—— 1六六二  
 胃病性—— 3一三三五  
 心臟—— 3一三三五  
 登高—— 3一三三五  
 電氣性—— 3一三三五  
 眞性—— 3一三三五  
 夜間—— 3一三三六  
 腸—— 2五五三  
 驗息計 1八九六  
 驗痛器 3二六六  
 携帶發汗裝置 1二〇三  
 懸壺垂肥大 2一〇一  
 憩室消息子 2二二六  
 結腸炎  
 粘液性—— 2五五五  
 急性加答兒性—— 2五三三  
 加答兒性慢性迴腸—— 2五五一  
 加答兒性急性迴腸—— 2五二四  
 結腸周圍炎(急性) 2二二一  
 結核 4一四九五  
 腦孤立性—— 3一〇三九  
 汎發性粟粒—— 4一四九七  
 脈絡膜—— 4一五二〇  
 鼻—— 4一五二五

慢性喉頭—— 4一五二六  
 慢性肺—— 4一五三三  
 肋膜—— 4一六三七  
 心囊—— 4一六四四  
 口腔—— 4一六四七  
 咽頭—— 4一六四八  
 食道—— 4一六五四  
 胃—— 4一六五七  
 腸—— 4一六五九  
 肝臟—— 4一六七二  
 脾臟—— 4一六七四  
 腹膜—— 4一六七五  
 尿管—— 4一六九四  
 腦—— 4一七一九  
 脊髓—— 4一七二四  
 腦脊髓膜—— 4一七三五  
 泌尿生殖器—— 4一六九五  
 結核菌 4一四九五  
 結核菌検査法(痰中ノ) 4一五七二  
 結核ノ早期診断 4一六〇七  
 下痢  
 神經性—— 2八八九  
 完穀—— 2三四〇 2五二五  
 脂肪—— 2五五四  
 交趾支那—— 2八八五

歇私的單性—— 3一四〇八  
 虎列拉—— 4二二八  
 下疳  
 軟性—— 4一八七〇  
 陰部軟性—— 4一八七三  
 硬性—— 4一九〇七  
 ハンター氏—— 4一九〇七  
 再發硬性—— 4一九一〇  
 外科腎 2二五四七  
 缺損症候 3八一七  
 毛ノ成形過多 3一八六一  
 毛ノ結節狀粗解 3一八八五  
 鎌狀胚 4九七四  
 檢糖法 4四〇一  
 ヘルレル氏・ムア氏—— 4四〇一  
 ニランデル氏—— 4四〇二  
 トロムメル氏—— 4四〇二  
 フォッシャー氏—— 4四〇三  
 ベットゲル氏—— 4四〇四  
 アルデル氏—— 4四〇四  
 クラトージス 3一八四一  
 毛狀—— 3一八四二  
 傳染性毛囊—— 3一八四五  
 遺傳性手掌及足蹠—— 3一八四六  
 ゲルハルト氏音調變換 1七七二

ゲルズニ氏粘著症狀 2五三三  
 ケルニヒ氏症狀 3七二八  
 ゲルハルト氏格魯兒鐵反應 4四一三

□

頸性拍水響 1三二〇  
 頸山惡液 2八六七  
 枯草熱 1五六九  
 喉頭炎  
 加答兒性—— 1五七九 1八五四  
 出血性—— 1五八六  
 急性聲帶下—— 1五八九  
 肉芽狀—— 1五九一  
 聲帶下慢性—— 1五九三  
 纖維性—— 1六〇五  
 粘膜炎—— 1六〇六  
 格魯布性—— 4一四六九  
 喉頭加答兒  
 職業的—— 1五八一  
 急性—— 1五八三  
 慢性—— 1五九〇  
 黴毒性—— 4一九八〇  
 喉頭塗筆 1六〇〇  
 喉頭海綿 1六〇〇  
 喉頭氣管カッター 1六〇六

喉頭電氣導子 1六四六  
 喉頭神經痛 1六六五  
 喉頭咳 1六六五  
 喉頭癆 4一五二六  
 呼吸の音調變換 1七七二  
 呼吸操練 1一三〇五  
 鼓槌指 1七七五  
 骨關節病  
 肺性肥大性—— 1七七五 3一五九七  
 肥大性—— 3一五九六  
 骨性獅面 3一五九七  
 骨腫病 4七二  
 骨髓腫(多發性) 4七二  
 骨軟化症 4五三二  
 產褥性—— 4五三三  
 非產褥性—— 4五三三  
 紅色變肝期 1九八八  
 紅斑  
 結節性—— 3一六五七  
 滲出性多形性—— 3一六六五  
 結節性滲出性—— 3一六六六  
 環狀—— 3一六六七  
 虹彩狀—— 3一六六七  
 迂曲—— 3一六六八  
 永久的滲出性多形性—— 3一六六九

猩紅熱樣再發性—— 3一六七〇  
 黴毒性皮膚—— 4一九一九  
 紅皮症(剝落性) 3一七三四  
 紅色陰癬 3一九五三  
 紅血症 4一四七  
 口腔諸病 2一  
 口内炎  
 加答兒性—— 2一  
 神經性加答兒性—— 2四  
 潰爛性—— 2二一  
 亞布答性—— 2二〇  
 口内乾燥症 2六五  
 口内惡臭 2七〇  
 口疫及蹄疫 4二〇八五  
 黑舌 2三五  
 黑吐瀉病 2二四一  
 初生兒—— 2二三八  
 黑色表皮角質變性 3一八五六  
 黑尿 4四九九  
 黑水熱 4一〇一一  
 黑血病 4一〇一一  
 黑内障  
 卒中樣—— 3一〇五六  
 尿毒性—— 2一四二一  
 絞縮胃 2四四五



絞紫肝 2二六二  
 肛門裂創 2八九六  
 肛門膀胱中樞 3三八九  
 孤腎 2二六二  
 光澤指 3九四  
 握手 3九七  
 鈎足位 3一三七  
 語首 3八三一 3八三八  
 語聲 3八四五  
 膠腫(膠) 3一〇三七  
 糠枇疹 3一八二六  
 慢性苔癬狀 3一七八九  
 赤色 3一七九〇  
 苔癬狀 3一七九二  
 頭部 3一八二三  
 單純 3一八二七  
 癬癩性 2二二〇 4一五六四  
 薔薇色 3一九七五  
 癬症性 4四一九  
 護 腫  
 骨 4一九六七  
 皮膚及皮下組織 4一九六一  
 舌 4一九九四  
 口蓋 4一九九六  
 胃粘膜 4一九九九

腸粘膜 4二〇〇〇  
 粟粒性肝臟 4二〇〇三  
 食道 4一九九九  
 脾臟 4二〇〇九  
 腎臟 4二〇一一  
 拳丸 4二〇二二  
 心筋 4二〇二三  
 動脈 4二〇二五  
 脊髓膜 4二〇一九  
 腦膜 4二〇二五  
 腦 3一〇四〇  
 硬指症 3一五一  
 厚皮性惡液 3一五二四  
 甲狀腺缺損 3一五三四  
 甲狀腺發育不全 3一五三四  
 甲狀腺性惡液 3一五三九  
 甲狀腺腫心 3一五七三  
 甲狀腺劑 3一五七六  
 溝爪 3一八九一  
 五炭糖 4四一一  
 五炭糖尿 4四七二  
 昏睡圓柱 4四四〇  
 股關節病(老人性) 4八五三  
 虎列拉  
 亞細亞 4二二六四

印度 4二二六四  
 輕症 4二二八三  
 厥冷性及假死性 4二二八四  
 最急性亞細亞 4二二九七  
 歐羅巴 4二二三三  
 室扶斯樣 4二二九八  
 虎列拉ウキアリオ 4二二六四  
 虎列拉兎眼 4二二九〇  
 虎列拉顏 4二二九〇  
 虎列拉反應期 4二二九八  
 虎列拉紅反應 4二二二二  
 虎列拉聲 4二二九六  
 虎列拉菌ゲラチン穿刺培養 4二二二二  
 虎列拉菌寒天平板培養 4二二二二  
 拳丸炎  
 耳下腺性 4一〇八七  
 急性痲疾性副 4一八〇四  
 項強直(流行性) 4一三三七  
 格魯布發作 4一四七六  
 コクチヂエン 2七八五  
 ゴーウアー氏素 3三七八  
 ゴール氏素 3三七八  
 コンドウクトーレン 4二二九五  
 コップリーク氏斑 4五九〇  
 コンドム 4一八三九

サ

コレル氏律 4一九一六  
 コンテキローム期 4一九一六  
 散 換 1一〇一一  
 山羊聲 1二三四  
 泊美藍色痰 1一〇〇九  
 竄透雜音 2二二二  
 酸性過多 2二二六  
 酸性乏少 2二二六  
 酸性缺乏 2二二六  
 細菌尿 2二七五五  
 產科醫手 3二二三五  
 瘰癧  
 普通 3一七四五  
 散在性 3一七四六  
 點狀 3一七四七  
 膿胞性 3一七四七  
 惡液性 3一七五二  
 人工的 3一七五二  
 夢見 3一七五三  
 クロール 3一七五三  
 ヨード 3一七五三  
 プローム 3一七五三  
 クリサロビン 3一七五三

前額 3一七五五  
 薔薇 3一七六四  
 痘孢樣 3一七五六  
 硬性 3一七四八  
 壞血病性苔癬又 4二二七六  
 微毒性 4一九二六  
 瘰癧クロイド 3一七六三  
 再種痘 4七八八  
 再種熱 4九四四  
 再歸熱螺旋菌 4九四五  
 三日熱 4九九三  
 サルシナ性口内細菌症 2四六  
 ザロール試験 2二〇八  
 ザルコフスキー氏オアルチン試験 4四二二  
 ザツカリン 4四六二  
 ザリチール酸譫妄 4八二九  
 ザリチール酸呼吸困難 4八二九  
 心内膜膿瘍 1一七〇  
 心内膜ノ變性 1二四四  
 心内膜ノ瘦削 1二四四  
 心内膜炎  
 腐敗性 1  
 潜伏性腐敗性 1五

再歸性腐敗性 1六  
 疣狀 1七  
 潰爛性 1七  
 瓣膜性 1九  
 側壁 1九  
 茸腫狀 1一〇  
 膿胞性 1一二  
 纖維性 1一三 1一五  
 收縮性 1一三  
 腱索潰爛性 1一四  
 乳嘴筋潰爛性 1一四  
 室壁潰爛性 1一五  
 室扶斯狀ニ經過スル腐敗性 1二七  
 間歇熱樣ニ經過スル腐敗性 1三三  
 再歸性腐敗性 1三八  
 硬化性 1五一  
 牽縮性 1五一  
 自體中毒性 1五五  
 痲疾性腐敗性 4一八二三  
 心瓣膜病  
 後天性 1五六  
 先天性 1二二〇  
 聯合性 1二二六  
 代償機障礙期ノ 1二三五  
 心瓣膜病ノ代償機障礙 1七〇



心臟惡液 1一三五  
 心臟ノ半側收縮 1一四〇  
 交代性 1一四一  
 心臟病(先天性) 1一二〇  
 心臟病細胞 1一四四  
 心臟作用不全 1一四八  
 心臟按摩 1二〇八 1三九三  
 心臟動脈ノ轉位(大ナル) 1二三四  
 心臟隆起 1七三 1三二七  
 心臟擴張 1三三六  
 ケーソン勞動者 1三四四  
 營養的 1三四四  
 中毒性 1三四五 1三六七  
 器械的・營養的 1三四六 1三六一  
 心臟ノ死後擴張 1三四七  
 心臟寄生生物 1四二〇  
 心臟位置變常 1四二四  
 心臟脫失 1四二五  
 心臟畸形 1四二六  
 心臟肥大 1三五四  
 遠心性 1三五六  
 求心性 1三五六  
 單純性 1三五七  
 妊娠性 1三六三  
 多血性 1三六六

自體中毒性 1三六七  
 特發性 1三六八  
 心臟間質炎(纖維性) 1四〇一  
 心臟ミカフキアローシス 1四〇三  
 心臟破裂(自發性) 1四二二  
 心尖ノ縮期の陥没 1九二  
 心囊諸病 1二四七  
 心囊炎 1二四七  
 潜伏性 1二四八  
 限局性 1二五三  
 瀰漫性 1二五三  
 漿液性 1二五五  
 膿性 1二五五  
 腐敗性 1二五五  
 出血性 1二五五  
 外 1二五八  
 癒著性 1二六〇  
 纖維性 1二六一  
 濕性 1二六五  
 恐水 1二八一  
 肝脈性縫隔 1三二〇  
 心囊瘻  
 內 1二五八  
 外 1二五八  
 心囊摩擦音 1二六一

心囊閉塞(完全) 1二六〇  
 心囊穿刺 1二九八  
 心囊切開術 1二九八  
 心囊癒著 1二九九  
 心囊腫瘍 1三三四  
 心囊寄生生物 1三三六  
 心囊内ノ遊離體 1三三七  
 心囊ノ缺損 1三三七  
 心囊憩室 1三三八  
 心質質諸病 1三三九  
 心筋炎  
 急性 1三九五  
 化膿性 1三九八  
 慢性 1四〇一  
 硬化性肥大性 1四〇三  
 心悸亢進症  
 發作性 1四二九  
 歇私的里性 3二四一〇  
 心悸遲徐症(發作性) 1四四八  
 心動遲徐症(永續的) 1四五二  
 心動間歇症 1四五三  
 舒期的喘喘 1七七  
 舒期的雜音 1八一  
 舒期的肺動脈音 1一〇一  
 舒期的正音(分裂シタル) 1一〇八

縮期の雜音 1八四  
 縮期前喘喘 1一〇四  
 縮期前雜音 1一〇六  
 縮期の遠達音 1七七四  
 小循環ノ能聽的毛細管脈搏 1一二  
 小腦側索路 3三七八  
 靜脈壁音 1一二四  
 靜脈瓣音 1一二三  
 靜脈性肝臟鬱血 2九五六  
 靜脈鬱血腎 2一四四七  
 靜脈石 2七四八  
 絨毛心 1二五四  
 絨毛黑變病 2五四六  
 腎炎  
 菌性乳嚙性 1一二  
 瀰漫性 2一四五七  
 急性 2一四五八  
 絲絨性 2一四六七  
 間質性急性 2一四六七  
 管性急性 2一四六七  
 實質性急性 2一四六七  
 上皮脫落性或ハ上皮機急性 2一四六九  
 加答兒性急性 2一四六九  
 急性淋巴腫樣 2一四六九  
 格魯布性急性 2一四七五

加答兒性 2一四七六  
 慢性實質性 2一四九五  
 慢性間質性 2一五二四  
 化膿性 2一五四五  
 腐敗性 4八七九  
 敵毒性 4二〇一  
 原發流行性感胃性 4九一三  
 腎臟内性分泌 2一四三三  
 腎臟痛出 2一五五七 2一五八九  
 腎臟ノ新生物 2一五七一  
 腎臟剝去術 2一五八九  
 腎臟縫著術 2一六二二  
 腎臟轉位 2一六二三  
 腎臟缺如 2一六二六  
 腎臟周圍炎 2一六四一  
 腎臟血管諸病 2一六四二  
 腎盂腎炎 2一五四七  
 腎盂炎 2一六六二  
 結石性 2一六六一  
 上行性 2一六六三  
 膿性 2一六六五  
 脫皮性 2一六六五  
 壞爛性 2一六六六  
 纖維性及壞疽性 2一六六六  
 格魯布性又義膜性 2一六六六

實扶的里性 2一六六六  
 出血性 2一六六六  
 顆粒性 2一六六七  
 痲疾性 4一八〇九  
 腎盂擴張 2一六四八  
 腎盂及輸尿管諸病 2一六四八  
 腎盂及輸尿管内ノ新生物 2一七二二  
 腎盂及輸尿管内ノ動物性寄生生物 2一七二三  
 腎副腎腫 2一五九一  
 腎痛(神經性) 2一六二八  
 腎周圍結締織炎 2一六二九  
 腎切開術 2一六六一  
 腎切除術 2一六六一  
 腎石病 2一六八〇  
 腎石手術 2一七〇六  
 腎疝痛 2一六九六  
 腎新生物 4六一  
 茸腫  
 真正心臟 1六一  
 心臟 2一三三六  
 胃 2一三九 2一三九六  
 腸 2一六五五  
 支心裝置 1一〇六  
 室中隔缺損 1一〇七 1一三一  
 腫瘍



心内膜 1三四四  
 氣管氣管枝腺ノ 1八四八  
 心臟 1三三六  
 心臟 1四一九  
 顯類葉ノ 3一〇六六  
 四疊體ノ 3一〇七二  
 松果腺ノ 3一〇七四  
 小腦ノ 3一〇七七  
 氣管枝 1七九七  
 後頭腦ノ 3一〇六八  
 脊髓 3五二三  
 正中迴轉ノ 3一〇五八  
 前頭腦ノ 3一〇六四  
 大腦脚ノ 3一〇七一  
 底部大脳諸神經ノ 3一〇六九  
 内囊 3一〇七〇  
 腦 3一〇三三  
 腦粘液腺ノ 3一〇八〇  
 縱隔洞 1一三七〇  
 腦膜 3一八一  
 肝腦體ノ 3一〇七一  
 放線冠及半圓中樞ノ 3一〇六九  
 顛頂腦ノ 3一〇六八  
 フロール氏橋 3一〇七五  
 脂肪心 1三八〇

貧血性 1三八三  
 潜伏性 1三八三  
 脂肪肝 2一〇八五  
 脂肪腎 2一五六九  
 脂肪腫(腸) 2六五五  
 脂肪過多症(有痛性) 4三三五  
 脂肪病 4三一  
 指趾骨骨髓炎 4一九六九  
 熱痰 1五八四  
 塵埃吸入病 1一〇七九  
 振盪音 1一三三〇  
 縱隔膜炎 1一三八六  
 食道鏡検査 2一六  
 食道消息子検査 2一六  
 食道擴張 2二八  
 瀰漫性 2二八  
 食道憩室  
 膨出性 2二九九  
 牽引性 2一四五  
 食道切開術 2一八五  
 食道穿通 2一九〇  
 食道破裂(自發性) 2一九四  
 食道軟化 2一九六  
 食道細菌病(オイザウヰ性) 2一九七  
 食道炎

加答兒性 2一五〇  
 蜂窠織炎性又化膿性 2一五五  
 中毒性 2一五七  
 食道腸切開術 2三九一  
 食慾及飢餓感覺ノ神經性障礙 2四九三  
 食土病 2六八九  
 人工營養法 2一五五  
 人 蛋 3一九四三  
 人痘接種 4七三二  
 人化痘苗 4七七九  
 持續套管 2一八九  
 試驗的食餌 2一〇四  
 試驗的朝食 2一〇九 2一一  
 砂漏狀胃 2三三四 2四四三  
 滋養灌腸料 2一六  
 砂 蛋 3一九四三  
 出血  
 食道 2一四七  
 脊髓 2四一七  
 腸 2七二  
 胸腺 1一三九五  
 痔 2七五〇  
 脾 2一五五  
 腦膜 3一五九  
 胃 2三三三

延髓 3七六四  
 脊髓膜 3七三八  
 潜伏性脊髓膜 3七四一  
 腦 3九〇五  
 毛細腦 3九四八  
 中毒性肺 1八六二  
 出血病 4二九四  
 出血性硬腦膜内層炎 3一六八  
 出血素質(特發性) 4二三三  
 消化不良(神經性) 2五〇七  
 十二指腸炎  
 加答兒性急性 2五三一  
 加答兒性慢性 2五五五  
 十二脂腸蟲 2八六六  
 神經病  
 混合性胃 2五〇七  
 血管神經性胃 2五〇七  
 分泌性胃 2四九五  
 腸血管運動 2九〇九  
 腸粘液 2九〇八  
 知覺的腸 2九〇〇  
 運動的腸 2八八九  
 分泌的腸 2九〇八  
 膀胱運動 2二七五九  
 運動 3一

災害 3一四二九  
 外傷性 3一四二九  
 電擊性 3一四三三  
 交感 3一四四七  
 支脈ノ血管運動性 3一四八三  
 間歇性血管運動神經性關節 3一四八五  
 顏面性營養 3一四九七  
 神經接枝法 3四六  
 神經癆 3二七五  
 末梢性 3三〇五  
 神經痛 3一八一  
 頸後頭 3二〇六  
 刺絡性 3二一五  
 膀胱 2一七六七  
 肝 2一六三  
 三叉神經 3一八一  
 橫隔膜 3二二二  
 膈 3二二四  
 肋間 3三三〇  
 乳腺 3三二五  
 胸背 3三二七  
 腰腹 3三二八  
 辜丸 3三二九  
 精系 3三二九  
 外股皮下 3三三〇

股 3三三三  
 閉鎖 3三三三  
 坐骨 3三三四  
 陰部及龜頭 3二五四  
 陰囊 3二五四  
 大陰唇 3二五四  
 尿道 3二五五  
 肛門膀胱 3二五五  
 肛門會陰 3二五五  
 尾閥骨 3二五六  
 關節 3二五六  
 歇私的里性腸 3一四〇八  
 歇私的里性 3一三九四  
 神經炎 3二八九  
 間質性 3二九六  
 實質性 3二九六  
 限局性 3二九六  
 瀰漫性 3二九六  
 化膿性 3二九八  
 增殖性間質性 3三〇〇  
 中毒性 3三二九  
 鉛毒性 3三三〇  
 砒毒性 3三三二  
 汞毒性 3三三七  
 銅 3三三八







ス

- 水車音 1三三〇
- 水車通氣器 1七三二
- 水腫
  - ハイモル氏洞 1五六二
  - 揮發性皮下 1一五〇
  - 心囊 1三三四
  - 後天性囊腫性腎臟 2二五九四
  - 腎臟 2六四八
  - 骨髓 3五三二
  - 膽囊 2二八〇
  - 蟲樣突起 2六〇五
  - 腦 3九〇三
  - 肺臟 1九三七
  - 類腦 3八九
  - 限局性皮下 3一四八七
  - 間歇性關節 3一四八六
  - 硬性 3一五二二
  - 痲疾性關節 4一八二二
  - 喉頭 1六〇九
  - 粘液 3一五二二
  - 大人粘液 3一五二三
  - 小兒粘液 3一五三四
  - 外科的粘液 3一五三九

セ

- 脾脫疽 4二〇八二
- 水笛音 1一三三九
- 水胸 1一三四五
- 水頭 3一〇九七
- 後天性 3一〇九九
- 外傷性 3一〇〇〇
- 眞空 3一〇〇一
- 先天性 3一〇二四
- 水痘 4七二六
- 黴毒性 4一九二五
- 水疱熱 3一七一五
- 水疱
  - 夏季 3一七三二
  - 牛痘樣 3一七三二
- 水胞痘 4七九三
- 膝腺諸病 2二五二
- 膝炎
  - 急性 2二五六
  - 出血性急性 2二五六
  - 急性化膿性 2二五六
  - 慢性 2二五八
- 膝石 2二七三
- 膝石疝痛 2二七五
- 膝ノ動物性寄生物 2二七七
- 錐體前索路 3三七八
- 錐體側索路 3三七八
- 西班牙病 4一七八九
- ステリコロリス 2八八五
- ストークス氏塗擦劑 3二四七
- ステルツグ氏徵候 3一五五三
- スメグマ菌 4一七〇八
- スヒロヘーテ・パリダ 4一八九五
- 全心臓炎 1三二
- 腎動脈 1一五八
- 後天性心瓣膜病ニ發生スル 1一五七
- 脾動脈 1一五八 4三四
- 腦動脈 1一五八
- 網膜動脈 1一五九
- 上下腸間膜動脈 1一六〇
- 大動脈 1一四七
- 四肢動脈 1一六〇
- 肺動脈 1一三六四
- 脂肪 1一三六五
- 腎動脈 2一六四二
- 大腸動脈 3九四九
- 空氣 1一三六五
- 腸間膜動脈 2九〇九
- 島嶼狀 3四四七
- 卒中樣 3四四九
- 再歸性 3四五七
- 慢性 3四六九
- 下行性急性 3四九五
- 延髓球 3九八二
- 脊髓軟化(栓塞性及血塞性) 3五一一
- 脊髓前角炎 3四三三
- 脊髓ノ動物性寄生物 3五一七
- 脊髓空洞症 3五二七
- 截斷性 3五二八
- 脊髓壓迫 3五三八
- 脊髓損傷(急性) 3五五六
- 脊髓白質炎 3四三三
- 脊髓癆 3五六三
- 糖尿性假性 4四三八
- 脊髓癆性關節病 3六〇〇
- 脊髓癆足 3六〇一
- 脊髓癆性内臟足 3六〇一
- 脊髓硬膜炎
  - 肥厚性内 3七一七
  - 出血性内 3七三〇
  - 内 3七一六
  - 外 3七二三
- 脊髓膜炎(急性) 3七二一

- 栓塞・血塞(球動脈) 3七六八
- 聲帶炎(下部肥大性) 1五九三
- 聲顫動 1九九八
- 喘息
  - 心臟 1三八七
  - 氣管枝 1八〇二
  - 痲癩性 1八〇二
  - 神經性 1八〇二
  - 血管分泌性氣管枝 1八〇二
  - 格魯兒 1八〇五
  - 鉛毒性氣管枝 1八〇五
  - 汞毒性氣管枝 1八〇六
  - 特質性 1八〇七
  - 鼻 1八〇八
  - 消化不良性 1八一〇
  - 腸蟲性 1八一〇
  - 月經性氣管枝 1八一〇
  - 妊娠性氣管枝 1八一〇
  - 匍行疹性氣管枝 1八一〇
  - 血族性氣管枝 1八二二
  - 交換性氣管枝 1八二七
  - 偏側性氣管枝 1八二七
  - 不全氣管枝 1八二七
  - 尿毒性 2二四二二
  - 喘息痰 1八二二

- 喘息結晶(ライテン氏) 1八二二
- 喘息散 1八三九
- 染色痰 1八六七
- 善飢症 1四九三
- 纖維素尿 2二九九七
- 穿腹術 2二三五七
- 穿孔性膿胸 1一三三七
- 穿孔症 3一四九四
- 足蹠 3一四九四
- 足 3一四九四
- 石細胞 2二二二六
- 旋毛蟲病 2八四四
- 筋肉 2八五〇
- 腸 2八四九
- 虎列拉樣 2八五四
- 攝護液漏 2一七九五
- 攝護腺炎(急性痲疾性) 4一八〇八
- 脊髓反射 3三八五
- 脊髓中樞 3三八九
- 脊髓癱瘓(卒中性) 3四二一
- 脊髓炎
  - 急性 3四三二
  - 中心性 3四三二
  - 瀰漫性急性 3四四六
  - 限局性急性 3四四六



脊髓軟膜炎(慢性) 3七三二  
 脊髓側索硬化症 3六二六  
 脊髓諸索ノ續發性變性 3七〇四  
 脊髓諸索ノ下行性變性 3七〇四  
 脊髓諸索ノ上行性續發性變性 3七一〇  
 脊髓膜ノ新生物 3七四四  
 脊髓膜ノ寄生動物 3七四九  
 脊 髓 病  
 官能的—— 3七五一  
 鐵道—— 3五三七 3一四三一  
 脊椎球 3七六一  
 脊椎炎(畸形性) 4八五九  
 脊椎ノ佝僂病性彎曲 4五二四  
 脊椎硬直(慢性) 4八六二  
 精神病(共働性職業的) 3二五〇  
 精神癲癇等價 3二〇八  
 精神震盪 3一四三三  
 正中滄 3八一九  
 線狀體 3八七〇  
 船 暈 3一三三九  
 腺 腫(肝) 2一三一  
 腺 病 4一七四三  
 監獄—— 4一七四七  
 過敏性—— 4一七四八  
 遲鈍性—— 4一七四七

生毛過多(先天的) 3一八六一  
 西穀脾 4五八  
 赤血球增多(特發性) 4一四七  
 赤血光線療法 4六五七 4七六八  
 赤 痢 4一三三七  
 アメバ—— 4一三三〇  
 濾胞性—— 4一三三八  
 白—— 4一四二四  
 紅—— 4一四二四  
 壞血病性—— 4一五二一  
 瘰癧斯樣—— 4一四四五  
 赤痢血清 4一三五七  
 接種術 4七七七  
 生 痰 1五八四  
 生殖器官(傳染性) 4一七八八  
 尖圭コンテイローム 4一八五六  
 瘦削性肉豆蔻肝 1一七三  
 蒼身症(先天性) 1一三三  
 草綠色痰 1一〇四四  
 挿置消息子 2一四二  
 挿管法 4一四八二  
 爪 手 3九七  
 爪肥大 3一八六五

爪缺如 3一八八八  
 爪破裂 3一八九一  
 爪離解 3一八九一  
 爪嫩症(寄生性又疱疹性) 3一九七一  
 卒中性體質 3九〇九  
 卒中性癱瘓 3九一二  
 中(電光性) 3九一九  
 神經性—— 3八九一  
 脊 髓—— 3四三三  
 肺—— 1八五八  
 漿液性肺—— 1九四六  
 歇私的單性腦—— 3一三八二  
 腦—— 3九一九  
 粟粒疹(透明) 3一八一七  
 赤色—— 3一八一七  
 白色—— 3一八一七  
 粟粒腫 3一八三〇  
 粟粒熱 3七一三  
 足汗症 3一八一  
 象皮病(希臘) 4一七六〇  
 龜 症 狀  
 大腸性—— 3八一六  
 前後ノ正中回轉ノ疾病ニ伴發スル——  
 3八一三  
 前額或ハ前頭回轉ノ皮質ノ疾病ニ現ハル、

3八二八  
 顛頂回轉ノ皮質ノ疾病ニ發生スル——  
 3八三〇  
 顛頂回轉ノ皮質ノ疾病ニ伴發スル——  
 3八三一  
 後頭回轉ノ皮質ニ疾アルトキ發生スル——  
 3八三三  
 半橢圓中樞ニ疾病アルトキ發現スル——  
 3八六三  
 內囊ノ疾病ニ伴發スル—— 3八六五  
 基底大脳脚神經節ノ疾病ニ伴發スル——  
 3八七二  
 大脳脚ノ疾病ニ伴發スル—— 3八七二  
 四疊體ノ疾病ニ伴發スル—— 3八七六  
 ヲロール橋ノ疾病ニ伴發スル—— 3八七七  
 小腦ノ疾病ニ伴發スル—— 3八八四  
 胼胝體ノ疾病ニ伴發スル—— 3八八六  
 腦底ノ疾病ニ伴發スル—— 3八八六  
 相對性紅斑性クラトアルミア 3一八四八  
 ソーセー氏穿刺套管 1二〇一

タ

大動脈破裂 1五四五  
 大赤色腎 2一五〇八  
 大白腎 2一四九七

大膿胞 3一七三五  
 壞疽性—— 3一七四四  
 打診法(小杆打板) 1一三三五  
 打診音變替 2四一五  
 唾液減少症 2六五  
 唾液停滯 2五八  
 唾腺排泄管炎(纖維素性) 2五八  
 膽道病 2一六四  
 膽道加答兒 2一六四  
 產石性—— 2一八九三  
 膽道炎(化膿性) 2一七五  
 膽囊炎 2一七七  
 膽囊蓄膿 2一七八  
 膽道ノ動物性寄生物 2一八七  
 膽囊切除術 2一三三四  
 膽囊切開術 2一三三四  
 膽囊腸連通術 2一三三五  
 膽血症 2九三九  
 膽 石 2一三三  
 膽石壓碎術 2一三三五  
 膽石疝 2一三〇  
 膽 砂 2一八九八  
 膽汁色素試驗  
 グメリン氏—— 2九二七  
 マレシヤル氏—— 2九二七

蛋白尿 2一三七二  
 真正—— 2一三七二  
 偶發性—— 2一三七二  
 混合性—— 2一三七二  
 腎性—— 2一三七三  
 血性或ハ惡液性—— 2一三七三  
 永續的—— 2一三七三  
 一時的—— 2一三七三  
 潛在性—— 2一三七五  
 生理的—— 2一三八八  
 官能的—— 2一三八八 2一三九〇  
 間歇性—— 2一三八九  
 循環性或ハ直立性—— 2一三八九  
 消化性—— 2一三八九  
 春機發動期—— 2一三九〇  
 傳染性—— 2一三九一  
 熱性—— 2一三九一  
 貧血性或ハ惡液性—— 2一三九二  
 神經性—— 2一三九二  
 中毒性—— 2一三九三  
 自體中毒性—— 2一三九三  
 蛋白尿ノ原因 2一三八八  
 蛋白尿ノ由來 2一三九三  
 蛋白質試驗法 2一三七八  
 蛋白質定量法 2一三八四



男性陰萎症 2二七七九  
 多覺症 3二七〇  
 多感症 3五八七  
 多毛症(後天性) 3一八六二  
 多發性神經炎 3三〇九  
 迷走性 3三二三  
 上行性 3三二三  
 急性並亞急性混合性 3三二五  
 同歸性 3三一九  
 慢性混合性 3三二九  
 遊走性 3三三〇  
 上行性急性 3三三〇  
 實扶的里性 3三三三  
 妊娠性及產褥性 3三三四  
 多發關節炎  
 特發性傳染性 4八〇三  
 結節性急性復發性 4八一六  
 慢性復發性 4八三七  
 多汗症 3一八〇六  
 汎發性 3一八〇六  
 局所 3一八〇七  
 腋窩 3一八〇九  
 苔癬樣鱗屑狀疹 3一七八九  
 苔癬  
 腺病性 3一七九八

赤色 3一八〇〇  
 鈍角 3一八〇〇  
 黴毒性 4一九二三  
 毛狀 3一八四二  
 丹毒 4六六二  
 皮膚 4六六五  
 常習 4六七〇  
 遊走 4六七二  
 小水胞性 4六七七  
 大水胞性 4六七七  
 壞疽性 4六七七  
 無熱性 4六七七  
 過熱性 4六七八  
 無力性 4六七八  
 粘膜 4六八七  
 帶狀疹 4六九三  
 單語症 3八四三  
 マニ 3一九四四  
 タリエール氏病 3一八五八  
 知覺脫失 3二五八  
 喉頭粘液膜 1六六三  
 有痛性 3二七四  
 三叉神經 3二七七

手

交換性半身 3八八〇  
 皮膚 3二七〇  
 歇私的里性 3一三八九  
 膀胱 2二七六九  
 知覺過敏  
 喉頭 1六六四  
 膀胱 2二七六八  
 神經性胃 2四九二  
 歇私的里性網膜 3一四〇〇  
 知覺異常性メラルギア 3三三一  
 地圖樣舌 2三三  
 腸管諸病 2五一一  
 腸炎  
 急性加答兒性 2五一一  
 加答兒性急性S字狀 2五三三  
 慢性加答兒性 2五四五  
 化膿性 2五七〇  
 纖維性 2五七一  
 壞死性 2五七一  
 腸加答兒  
 慢性 2五四五  
 急性小 2五三〇  
 腸內注液器  
 コルツプ氏 2五四二  
 ハガール氏 2五四二

腸擴張 2六三三  
 腸重疊 2六五六  
 不全 2六五八  
 完全 2六五八  
 下行性 2六五八  
 原發上行性 2六五九  
 痙攣性 2六六二  
 痙攣性 2六六二  
 死戰期 2六六三  
 腸閉塞 2六九五  
 膽石性 2六七七  
 術後 2六八三  
 歇私的里性痙攣性 3一四〇八  
 痙攣性 3一四〇八  
 腸液粉變性 2七六〇  
 腸下垂 2七六四  
 腸石 2七六六  
 腸異物 2七七四  
 腸ノ動物性寄生物 2七七七  
 腸原蟲 2七八一  
 腸扁平蟲 2七九〇  
 腸圓蟲類 2八二四  
 腸ノ神經性蠕動不穩 2八九二  
 腸ノ鎮靜 2八九二  
 腸弛緩(神經性) 2八九二

腸痛(神經性) 2九〇〇  
 腸疝痛 2九〇〇  
 胎便性 2九〇一  
 風氣 2九〇一  
 中毒性 2九〇一  
 腸知覺異常 2九〇七  
 腸分泌過多(神經性) 2九〇八  
 腸血管ノ疾患 2九〇九  
 腸間膜動脈破裂 2九一五  
 直腸炎  
 急性加答兒性 2五三四  
 慢性加答兒性 2五五六  
 直腸周圍炎 2五五三  
 蟲樣突起炎 2五七二  
 蟲樣突起周圍炎 2五九三  
 蟲樣突起潰膿 2六〇五  
 蟲樣突起疝痛(神經性) 2六〇七  
 蟲樣突起切除術 2六一七  
 蟲道 3一九二五  
 痔  
 中間 2七四七  
 混合 2七四七  
 粘液 2七五〇  
 赤色流 2七五〇  
 狂 2七五〇

白色流 2七五〇  
 痔靜脈擴張 2七四三  
 痔性苦痛 2七五一  
 住血絲狀蟲 2三六九  
 播癩病 3一三〇六  
 室扶斯青斑 3一九四二  
 室扶斯菌者 4一〇九七  
 第二膽囊性 4一〇一  
 室扶斯治療血清 4二二〇  
 室扶斯冷水療法 4二二二  
 室扶斯 4一〇九六  
 發疹 4五五三  
 頓挫性發疹 4五六九  
 無痛性發疹 4五六九  
 膿液性再歸 4九六一  
 黃痘樣 4九六一  
 肉 4一〇八  
 牡蠣 4一〇七  
 廻腸 4一〇四  
 再發 4一〇三  
 無熱性 4一〇七  
 不全 4一〇七  
 輕症 4一〇七  
 痲痺性癡狂 4八二三



癩 鈍 4八三三  
 ゲネロチーツ氏現象 1八八  
 ゲットリッヒ氏塞子 1七〇九 1二二八  
 ゲユラフオア氏吸引装置 1二二八五  
 ゲユークレー氏桿菌 4一八七一  
 ゲストーム・プルモナリレ 1八六〇  
 ナスチツエルグス・ツェルローザ 2二三六九  
 ナストーマ 2二二八九  
 腦 3二二二九  
 ナスチツエルグス(腦) 3二二三〇  
 ナスチン尿 4四九二  
 ナトロン氏酸計 2二二三  
 ナトリクテス・ワリオレ 4七三三  
 ナノノセ性肉豆蔻肝 2九六〇  
 ナゴート 4九八四  
 ナキップマン氏囊 3四三〇  
 ナフトキシシン 4一〇〇  
 ナール氏石炭酸フクシン溶液 4一五七四

ツ

頭痛  
 歇私的里性 3二二九五  
 神經性 3二四七三  
 常習 3二四七三  
 充血性 3二四七六

貧血性 3二四七六  
 微毒性 4二〇三一  
 頭蓋癆 4五〇九  
 痛風 4三三八  
 急性關節 4三四二  
 慢性關節 4三四八  
 軟骨 4三五一  
 皮膚 4三五一  
 無力性 4三三三  
 内臟 4三三三  
 逆進性・轉移性 4三五四  
 腎臟 4三五四  
 心臟 4三五五  
 痛風結節 4三三八  
 骨膜下 4三三三  
 ツェルコモナス・インテスチナリス 2七八五  
 ツェルコモナス・コリ 2七八六  
 ツェンケル氏筋變性 4一六〇四  
 ツベルクリン反應 4一六〇四  
 ツベルクリン療法 4一六二八

テ

点滴音 1二二三  
 點頭強直 3二七七  
 癩癩 3二八一

尿毒性 2二四一九  
 部分的 3八二六  
 皮質 3八二六  
 シヤクソン氏 3八二六  
 遲發 3二八九  
 重症 3二八九  
 夜間 3二〇一  
 晝間 3二〇一  
 疾走性 3二〇五  
 輕症 3二〇六  
 不全 3二〇六  
 精神的 3二〇八  
 催眠性 3二〇九  
 麻醉性 3二四一  
 歇私的里性 3二四二五  
 微毒性 4二〇三三  
 癩癩發原體 3二一九二  
 癩癩性アウラ 3二一九三  
 癩癩樣狀態 3二〇七  
 癩癩(交換性) 4八二三  
 濃粉肝 2二〇九四  
 濃粉樣腎 2二五五八  
 濃粉脾 4五七  
 蹄鐵狀腎 2二六二五  
 傳道運徐 3五八六

鐵道腦病 3二四三一  
 天疱瘡 3一七〇四  
 散在性 3一七〇五  
 孤立性 3一七〇六  
 匍行性 3一七〇六  
 輪狀 3一七〇六  
 癢痒性 3一七〇六  
 出血性 3一七〇七  
 初生兒 3一七〇七  
 微毒性 3一七〇 4一九二五  
 普通 3一七二二  
 葉狀 3一七二四  
 惡性 3一七二五  
 增殖性 3一七二六  
 壞血病性胞疹及 4二七六  
 天然牛痘漿 4七七七  
 癩風 3一九四八  
 泥熱 4一三二九  
 テタニー 3二二二七  
 甲状腺性 3二二三一  
 妊婦・産婦・乳婦 3二二三二  
 乳兒ノ 3二二三三  
 テタニー樣狀態 3二二三三  
 テタノトキシシン 4一三四四  
 テタノスパズミン 4一三四四

テタノヘモリジン 4一三四四  
 テキサヒドロジス 3一八一六  
 テンゲ 4九一八

冬期咳症 1七〇三

動脈瘤  
 肺動脈 1一三六三  
 肝動脈 2二五〇  
 腸動脈 3一三八  
 腎動脈 2二六四六  
 大動脈 1四八七  
 離解性大動脈 1五四六  
 腸間膜動脈 2九一四  
 肺動脈 1一三六三  
 脾動脈 4七一  
 動脈病(心冠狀) 1四二六  
 糖涎症 2五一  
 糖被肝 2九七七  
 糖尿病 4三三五  
 磷酸鹽 4四二四  
 銅色 4四二四  
 欺瞞性 4四二四  
 血族性 4三八六  
 肝性 4三八九

膝性 4三八九  
 腎臟性 4三九〇  
 外傷性 4三九一  
 間歇性 4四二三  
 糖尿性昏睡 4四三九  
 糖刺 4四五二  
 吐血 2二四〇  
 歇私的里性 3二四〇六  
 吐逆 2二七三  
 神經性 2四七一  
 瞳孔縮小  
 尿毒性 2二四二二  
 脊髓性 3五九八  
 瞳孔不同 3五九八  
 歇私的里性 3二三九九  
 瞳孔強直(反射性) 3五九七  
 瞳孔中樞(脊髓性) 3三九〇  
 豚脂腎 2二五六〇  
 兔眼(麻痺性) 3一七  
 頭癩 3一九三五  
 禿頭 3一八七四  
 老人性 3一八七四  
 早發 3一八七五  
 症候的 3一八七六  
 糠枇性 3一八七八



限局性—— 3一八八  
 室扶斯後—— 4一八三  
 黴毒性—— 4一九二八  
 銅病 4五  
 檸檬療法 4三八〇  
 痘瘡 4七三二  
 疎隔性—— 4七五二  
 融合性—— 4七五二  
 出血性—— 4七五二  
 不全—— 4七五三  
 氣胞—— 4七五三  
 無熱性—— 4七五四  
 痘 4七五〇  
 動物性牛痘漿 4七七八  
 動物傳染病 4二〇六三  
 毒血症 4八八二  
 獨逸病 4一七八九  
 トラウベ氏現象 1八八  
 トリコモナス・インテスチナリス 2七八七  
 トリコフキートン・トズラニス 3一九六四  
 トリコモシス・パルメリナ 3一九七八  
 トリパノソミアシス 4一〇三四  
 トリパノソイメン 4一〇三四  
 トルソー氏徴候 3二二三七  
 トルレン氏フロイゲルチン試験 4四一一

ナ

トルソー氏皮膚斑 4一三八九 4一七三六  
 ドユヒイートレン氏筋膜拘攣 4三五五  
 軟口蓋ノ搏動 1七七  
 軟口蓋及咽頭諸病 2六〇  
 軟骨膜炎  
 喉頭—— 1六二〇  
 披裂—— 1六二三  
 環狀—— 1六二三  
 甲狀—— 1六二四  
 會厭—— 1六二四  
 那篤倫油液滴下法 2二二五  
 内臟位置變常症 2四四二  
 内臟錯位 2一五七  
 内翻馬足位 3一三四  
 内臟肥大 3一五九〇  
 内膜炎  
 急性大動脈—— 1四七三  
 慢性大動脈—— 1四七四  
 ナボリ病 4一七八九  
 二連心動 1一三八  
 二硝子基試験 4一七九九 4一七三六

ネ

二重感覺 4五八七  
 肉變 1九二六  
 肉腫  
 胃—— 2三九六  
 肝—— 2一三〇  
 腎臟—— 2二五九〇  
 脾—— 2二六五  
 腸—— 2六五四  
 腦—— 3一〇三九  
 腹膜—— 2一三六七  
 脾—— 4六三  
 肺—— 1一五八  
 乳糜腫(心嚢) 1三三三  
 乳糜胸 1一三五五  
 乳糜尿 4一〇四四  
 含血—— 4一〇四六  
 乳嚙狀態 2二七八  
 乳嚙面 2二七八  
 乳痲 3一六八五  
 ニクトテリス・アフリカモリス 2七八九  
 尿硫化炭素 2一七三〇  
 尿失禁(痲痺性) 2一七六一  
 尿利困難(痲痺性) 2一七六六

尿閉

痲痺性—— 2一七六六  
 奇異—— 2一七六二  
 尿淋瀝(有痛性) 2一七六六  
 尿道漏(腺性) 2一七九六  
 尿道周圍炎 4一八〇一  
 尿道絲 4一八四一  
 尿汗症 2一四二五 3一八二六  
 歇私の尿性—— 3一四一一  
 尿崩症 4四七四  
 尿毒性偏癱 2一四二〇  
 尿毒症 2一四一四  
 官能的—— 2一四一五  
 尿毒疹 2一四二三  
 粘液癆 1七〇六  
 粘液白痢 3一五三六  
 熱帶熱 4一〇〇七  
 ネグリー氏小體 4二〇六四  
 尿酸素質 4三三八  
 尿酸ニ對スル絲狀試驗 4三七六  
 膿液浸潤症(蔓延性) 2三〇三  
 膿瘍  
 腦—— 3九八七

横隔膜下

横隔膜下—— 2一三〇七  
 肝—— 2九八五  
 胸腺—— 1一三九五  
 潜伏性心臓—— 1三九八  
 膽汁—— 2一七六  
 胃—— 2三〇四  
 肺—— 1一〇八八  
 膀胱—— 2一七三二  
 脾—— 4四〇  
 固定—— 4八八七  
 膿疱疹 3一七三五  
 普通—— 3一七三六  
 惡液性—— 3一七三七  
 傳染性—— 3一七三九  
 匍行性—— 3一七四二  
 囊蟲 2一八一八  
 囊腫腎 2一五九二  
 先天性—— 2一五九二  
 囊腫  
 肝—— 2一三三  
 包蟲—— 2一三六八  
 卒中性脊髓—— 3四二一  
 卒中—— 3九二二  
 胃—— 2三九七  
 脾—— 4六三

微毒性水

微毒性水—— 4一九七三  
 腦脊髓硬化 3四八〇  
 腦脊髓膜炎  
 流行性—— 4一三七二  
 メニンゴコクケン性—— 4一三七三  
 非流行性化膿性—— 4一四一四  
 漿液性—— 4一四二一  
 腦脊髓膜炎叫號 4一三八九 4一七三二  
 腦皮質中樞病 3八一九  
 下肢ノ運動性—— 3八三二  
 上肢ノ運動性—— 3八三二  
 腦膜炎  
 腦髓—— 3九八一  
 卒中樣結核性—— 4一七三六  
 膜ノ動物性寄生物 3一八一  
 腦髓炎 3九七三  
 灰色—— 3九八一  
 白色—— 3九八一  
 混合性—— 3九八一  
 腦穿孔 3一〇一八  
 腦炎(先天性) 3一〇三一  
 腦硬化症(痲痺性) 3一〇三二  
 腦軟化 3九五五  
 腦症狀(痲痺性) 3八一五  
 腦室穿刺 3一二二



腦肥大 3二二三  
腦ノ動物性寄生物 3二二九  
腦病(官能性) 一一八一 3二七三  
腦砂腫 3二〇四〇

肺強直 1一四五  
肺血 1八五四  
肺腫大(急性) 1八八四  
肺膨脹不全 1九二二  
肺ノ凋萎硬化 1九二七  
肺炎

加答兒性 1九五〇  
氣管枝 1九五〇  
小葉性 1九五〇  
嚥下 1九五四  
吸引性 1九五四  
纖維性 1九七三  
格魯布性肺炎性 1九七三  
大葉性 1九七三  
纖維性肋膜炎 1九七三 1二一八七  
分離 1一〇六五  
鸚鵡 1九八六  
弛緩性 1九八八  
重厚 1九九九

不全纖維性 1一〇二四

一日性 1一〇三四  
遷延性 1一〇二五  
進行性 1一〇二五  
迷走性 1一〇二五  
間歇性 1一〇二五  
無熱性 1一〇二七  
原發性無力性 1一〇二七  
膽液性 1一〇二八  
小兒 1一〇二八  
老人 1一〇二九  
箇人的無力性 1一〇二九  
酒客 1一〇三〇  
續發性纖維性 1一〇三〇  
假性肋膜炎樣 1一〇四七  
急性間質性 1一〇六五  
慢性間質性 1一〇六六  
原發流行性感官性 4九二二  
肺炎菌  
フレンケル氏 1九七五  
フリードレンタル氏 1九七七  
肺炎家屋 1九八三  
肺臟變肝 1九八七  
肺硬化 1一〇六八  
板石狀 4一五九四

肺炭粉病 1一〇七九  
肺鐵粉病 1一〇八〇  
肺矽石病 1一〇八一  
肺ノ新生物 1一〇四一  
肺菌症 1一七〇  
肺去皮法 1一三〇一  
肺痙音 1一三三九  
肺結核飛沫傳染 4一五三五  
肺結核塵埃傳染 4一五三六  
肺結核遺傳 4一五四一  
肺結核高山療法 4一六一三  
肺空洞 4一五四九  
發聲困難 1六五八  
磐石樣癆痕 1一〇六七  
破瘻音 1一三二六  
破傷風 4一三四三  
初生兒 4一三四七  
局處性 4一三六〇  
半身性 4一三六〇  
頭部 4一三六〇  
恐水性 4一三六〇  
癡癲質斯性 4一三四九  
破傷風菌 4一三四三  
破傷風頭 1一三五二  
破傷風治療血清 4一三六五

破傷風抗毒素 4一三六六

乾燥 4一三六五  
反嚼症 2四七八  
反射弓 3三八六  
梅核期 2五〇九  
梅汁樣痰 1一〇四二  
敗血症 2一七三三  
敗血膿毒症 4八七二  
耳性 4八七二  
ペスト 4九三七  
敗血膿毒疹 4八七七  
半身不隨  
大腦性 3八二〇 3九二七  
交換性 3八七八  
歇私的異性 3一三八二  
半盲症 3八三四  
半月狀態 4九八〇  
白斑  
口内 2三八  
黴毒性 4一九三三  
白血球增多(消化性) 2三八〇  
白血病 4一五一  
脾臟性 4一五一  
淋巴性 4一五一  
骨髓性 4一五二

腸性 4一五二

急性 4一五四  
慢性 4一六七  
假性 4一六六  
白血病新御生物 4二〇一  
白貧血症 4二〇一  
白毛症 3一八七一  
早發 3一八七一  
白爪 3一八八九  
醱酵試驗 4四〇四  
馬痘 4七七四  
馬疫 4二〇七一  
馬疫菌 4二〇七二  
黴毒 4一八九五  
後天 4一八九七  
第一及第二期/後天 4一八九八  
種痘 4一九〇五  
不全 4一九一五  
最急性惡性 4一九三二  
皮膚ノ第三期 4一九六一  
結節性 4一九六一  
骨ノ第三期 4一九六七  
關節 4一九七一  
筋 4一九七二  
粘液囊・腱鞘及筋膜ノ 4一九七三

鼻 4一九七四

喉頭 4一九七九  
護謨腫性喉頭 4一九八二  
氣管及氣管枝 4一九八七  
肺臟 4一九八九  
肋膜 4一九九三  
乳腺 4一九九四  
口腔ノ三期 4一九九四  
唾液腺ノ第三期 4一九九六  
硬軟口蓋ノ第三期 4一九九六  
第三期咽頭 4一九九八  
食道 4一九九九  
胃 4一九九九  
腸 4二〇〇〇  
第三期肝臟 4二〇〇一  
第三期脾 4二〇〇八  
脾臟 4二〇〇八  
泌尿器 4二〇一〇  
生殖器 4二〇一一  
腦及腦膜 4二〇三三  
遺傳 4二〇三八  
先天性 4二〇三九  
晚發遺傳 4二〇五三  
第三期心臟 4二〇一三  
血管 4二〇一五



淋巴管及淋巴腺—— 4二〇二六  
 末梢神經—— 4二〇一六  
 脊髓及脊髓膜—— 4二〇一七  
 黴毒再感 4一九〇一  
 黴毒疹 4一九〇六 4一九一七  
 黴毒性粘膜炎 4一九二六  
 黴毒性爪溝炎 4一九二八  
 黴毒性爪狀炎 4一九二八  
 黴毒性虹彩炎 4一九二九  
 黴毒性消削 4一九三三  
 黴毒性前額皮疹 4一九四〇  
 黴毒性汚泡 4一九六二  
 黴毒性象牙化 4一九六九  
 黴毒性骨痛 4一九六九  
 黴毒性結節腫 4一九七〇  
 黴毒性毒狀腫 4一九六三  
 黴毒性軟鼻 4一九七六  
 黴毒性臭鼻 4一九七八  
 黴毒性嗅覺 4一九八〇  
 黴毒性昏睡 4二〇三二  
 黴毒性骨膜炎 4一九二九  
 黴毒性軟骨炎 4二〇四六  
 黴毒恐怖病 4二〇三〇  
 パクセリ氏現象 1一〇〇一  
 パッペンハイム氏染色法 1一三三〇

ハフチンソン氏三症候 4二〇五八  
 パランチザム・コリ 2七八八  
 パラオクロメス(多發性) 3一三〇一  
 パラミオトニア(先天性) 4一六五四  
 パラプソリアシス 3一七八九  
 パラチフス 4一三三三  
 パラチフス菌 4一三三三  
 パピンスキー氏症候 3四〇七 3六三二  
 3一六四  
 パルアプアシー 3八四五  
 パルトリニ氏腺炎 4一八九七  
 ハムモンド氏病 3二九四  
 パーキンソン氏病 3一三〇八  
 バンチ氏病 4五二  
 バセドー氏病 3一五四〇  
 ハム牌 4五九  
 バロイ氏病 4二八九  
 バンチグ氏療法 4三三〇  
 ハフキン氏豫防液 4九四二  
 バイフェル氏試驗 4一三二〇

K

脾臟搏動 1七六  
 脾變 1九二六  
 脾ノ疾病 4二五  
 脾囊炎 4三九  
 脾炎(慢性) 4四六  
 脾寄生物(動物性) 4六四  
 脾轉位 4六八  
 脾破裂 4六九  
 脾脫疽 4二〇七七  
 脾脫疽菌 4二〇七七  
 脾脫疽腫 4二〇八一  
 脾脫疽敗血症 4二〇八一  
 脾脫疽血清 4二〇八四  
 水掛心 1二五九  
 鼻炎  
 加答兒性—— 1五五一  
 消削性慢性—— 1五五九  
 肥大性慢性—— 1五五九  
 潰瘍性—— 1五六一  
 纖維性—— 1五六八  
 黴毒性消耗性—— 4一八四五  
 鼻加答兒  
 急性—— 1五五五  
 慢性—— 1五五八  
 鼻噴注法 1五六六  
 鼻息肉 3一七六六  
 皮膚瘙癢 2九三二  
 皮膚硬化症 3一五〇八

皮膚炎 3一六五七  
 打撲性—— 3一六六〇  
 匍行疹形—— 3一七〇二  
 剝脫性—— 3一七三二  
 初生兒剝脫性—— 3一七三二  
 大人剝脫性—— 3一七三四  
 頭部乳嚙性—— 3一七六三  
 結節性鱗屑癬狀—— 3一七八九  
 皮膚剝離(大水泡性) 3一七八九  
 皮膚ノ先天の色素缺乏 3一八六七  
 皮膚萎縮線 3一八九二  
 皮膚弛緩 3一八九六  
 皮膚乾燥(色素性) 3一八九七  
 皮膚癢痒症 3一九一九  
 皮膚囊蟲 3一九四六  
 皮質性癩盲 3八三八  
 皮質性癩盲 3八三八  
 皮膚漏 3一八二一  
 油狀—— 3一八二二  
 乾性—— 3一八二二  
 被髮部—— 3一八二二  
 顔面—— 3一八二四  
 陰部—— 3一八二五  
 汎發性—— 3一八二六  
 皮脂分泌障礙 3一八二八

皮膚分泌減少 3一八二七  
 貧血  
 鐵山—— 2八六七  
 腎臟—— 2一四四二  
 骨髓—— 3四〇九  
 隧道—— 2八六七  
 腦—— 3八八八  
 裂頭蠱蟲—— 2八〇三  
 煉瓦工—— 2八六七  
 進行性惡性—— 4一〇七  
 小兒性假性白血病性—— 4二二〇  
 壞血病性—— 4二二二  
 貧血小體 4二二二  
 歇私的里 3一三七三  
 耳性—— 3一三七七  
 外傷性—— 3一三七九  
 內臟—— 3一四〇三  
 麻痺性—— 3一四一六  
 歇私的里卵 3一三九五  
 歇私的里球 3一四〇四  
 歇私的里熱 3一四一三  
 歇私的里發作 3一四〇八  
 歇私的里狀態 3一四二二  
 歇私的里後狀態 3一四三三  
 歇私的里性ケフアルゲミア 3一三九四

歇私的里性腫皮 3一三九七  
 歇私的里性呃逆 3一四〇九  
 歇私的里性怪腫 3一四〇六  
 歇私的里性アリア 3一四二五  
 歇私的里性嘔 3一四一六  
 歇私的里性雙啞 3一四一六  
 歇私的里性雷鳴 3一四〇八  
 歇私的里性言語無節 3一四一七  
 歇私的里性鼓腸 3一四〇五  
 歇私的里性コヒオピア 3一三九九  
 歇私的里性筋肉強直 3一三八四  
 歇私的里性嗅覺鈍麻及脫失 3一四〇二  
 歇私的里性吃 3一四一七  
 歇私的里性失音 3一四一八  
 歇私的里性痛覺脫失 3一三九一  
 肥滿 4三二一  
 非種痘論者及種痘擾亂 4七九八  
 依卜昆塔里  
 腸蟲性—— 2八〇九  
 痲病性—— 4一八四三  
 ビューロー氏吸上排澱法 1二二九八  
 ビールメル氏音調變換 1一三三八  
 ビーテル氏沈澱法 4一五七四  
 ヒルシユスブルグ氏病 2六三四  
 ヒルケー氏皮膚反應 4一六〇六



ヒボクラテス氏黒色病 2二四一 2七三六

フ

分利 1一〇一  
 分利擾亂 1一〇三  
 分極装置 4四〇八  
 噴門竇 2二四七  
 蕁瘡 2八九七  
 腹膜諸病 2二七八  
 腹膜炎 2二七八  
 中毒性 2二八〇  
 雙麻質新性 2二八五  
 外傷性 2二八五  
 隱性 2二八六  
 乾性 2二八六  
 纖維性 2二八七  
 癒著性 2二八八  
 硬化性 2二八八  
 塞塞性 2二八八  
 化膿性 2二八九  
 腐敗性 2二九〇  
 出血性 2二九一  
 急性瀰漫性纖維性・化膿性 2二九四  
 肺炎直性 2三〇三  
 産褥性 2三〇五

急性限局性 2三〇六  
 穿孔性 2三二六  
 瀰漫性慢性 2三二六  
 限局性慢性 2三二八  
 結核性 4二六七  
 腹水 2三三二  
 漿液性 2三三四  
 乳光性 2三三八  
 脂肪性 2三三九  
 乳糜様 2三三九  
 乳糜性 2三三九  
 膠質性 2三三三  
 腹膜ノ動物性寄生物 2三三八  
 舞蹈病  
 尿毒性 2二四二  
 ワイツ氏 3二六四  
 英吉利 3二六四  
 シテンナム氏 3二六四  
 老人 3二六四  
 夜間ワイツ氏 3二七六  
 局部 3二七六  
 交換性 3二七六  
 截癱性 3二七六  
 半身 3二七六  
 精神病性 3二七八

慢性進行性 3二九〇  
 ハンチントン氏 3二九〇  
 變質性 3二九〇  
 半身不隨前趾ニ後 3二九三  
 電氣性 3二九九  
 ヤウビニー氏電氣性 3二九九  
 ヘルゲロン氏電氣性 3三〇〇  
 小 3二六四  
 歇私的里性 3三八七  
 黴毒性 4二〇三  
 不足腎 2二六六  
 不妊症(男性) 2二七八  
 部位示定力 3二六二  
 腐爛症(口内) 2二  
 風疹 4六二  
 佛蘭西病 4一七八  
 フニールプリンゲル氏瘰癧子装置 1二二八  
 フレンツェル氏トロアカール 1二二八  
 プリースニツツ氏捲法 2八三  
 フリドワイヒ氏病 3六九八  
 プルヒュール氏症狀 2二〇二  
 アルダハ氏案 3三七八  
 プラハトローンベルグ氏症狀 3五八九  
 プラウド氏丸 4一〇二  
 フラゲララーテン 4二二

プソロスヘルモイシス(増殖性毛囊性)

3一八五八  
 フキラト・デュロクス氏病 4六六〇  
 フキラリア病 4一〇四三  
 フキラリア・サンガイヌ・ホミニヌ 4一〇四四  
 フキケル氏室扶斯診斷液 4一九六  
 フェンウキック氏彈力纖維發見法 4二五七八  
 プロフェタ氏規則 4二〇四一

閉鎖不全

心臓瓣膜ノ關係的 1六二  
 官能的心瓣膜 1六四  
 大動脈瓣 1七一  
 僧帽瓣 1九四  
 關係的僧帽瓣 1一〇二  
 肺動脈瓣 1一〇九  
 三尖瓣 1一五  
 三尖瓣先天性 1二二二  
 扁桃腺炎

急性 2六〇  
 急性紅斑性即チ存在性 2七一  
 急性高性 2七三  
 急性膿潰性 2七三  
 蜂窠織炎性 2七五

慢性 2八六

慢性實質性 2八八  
 扁桃腺肥大(慢性) 2八一  
 鞭蟲 2八四〇 3一九四六  
 便毒

痒疹 3二七五  
 下疳 4一八二  
 無痛 4一九二  
 腺病性黴毒性 4一九七  
 偏頭痛 3一四五五  
 眼性 3一三五 3一四六四  
 單純 3一四五七  
 變換性 3一四五八  
 交感神經痙攣性 3一四六二  
 血管運動神經性 3一四六二  
 交感神經麻痺性 3一四六三  
 眼筋麻痺性 3一四六五  
 顫搐性 3一四六六  
 偏頭痛筆 3一四七二  
 偏頭痛性等價 3一四六六  
 辨音不能 3八三三  
 扁平コンデキローム 4一九九  
 ヘルペス 4六八八  
 帶狀 4六九二  
 出血性帶狀 4七〇〇

壞疽性帶狀 4七〇〇

歇私的里性壞疽性帶狀 4七〇一

陰部 4七〇七  
 咽喉 4七一  
 ヘルペス熱 4六八九  
 ベスト 4九二九  
 腺 4九三五  
 皮膚 4九三六  
 肺 4九三七  
 腸 4九三七  
 ベスト菌 4九三〇  
 ベスト豫防接種 4九四二  
 ベドナール氏亞布答 2二七  
 ベンタストムムテンテイクライツウム 2一三六九  
 エプトン尿 2一三七五  
 エプトン水内培養 4一三一  
 ヘルラグラ 3一六七  
 ヘルフェンベルグ氏纖維藥 2八一〇  
 ヘイロホムフォリツツス 3一八一  
 ヘマトホルフキリン尿 4二六二  
 發作性 4二六六  
 ヘルテン氏結節 4三七五 4八五一  
 ベヒテリユー氏病 4八六三



木

房中隔缺損 1二三〇  
 先天性 1二二六  
 抱合鹽酸 2二二七  
 飽感亡失 2四九五  
 飽感増劇 2四九五  
 包蟲 2二八八  
 腦 3一三四  
 脾 4六四  
 包蟲腫  
 肝 2一三三  
 單房性肝 2一三三  
 多房性肝 2一五一  
 肺 1一六〇  
 腎臟 2一六〇  
 肋膜 1一三六  
 包皮石 3一八二五  
 包莖  
 炎症性 4一八〇二  
 箱頓 4一八〇二  
 膀胱炎 2二七六  
 急性加答兒性及膿性 2二七二  
 實質性及蜂窠織性 2二七三  
 出血性 2二七二 2二七七

纖維性擬膜性・格魯布性 2二七二  
 壞疽性 2二七二  
 慢性 2二七二  
 列柱狀 2二七三  
 落屑性 2二七六  
 急性痲疾性 4一八〇九  
 膀胱膿漏 2二七七  
 膀胱肥大(求心性) 2二七五  
 膀胱注入法 2二七四  
 膀胱內動物寄生物 2二七五  
 膀胱內異物 2二七八  
 放心 3二〇六  
 癩癩性 3二〇六  
 放線菌病 4二〇八  
 匍行疹  
 口唇 2二六五  
 妊娠性 3一七〇四  
 蜂腰 3一六一  
 乏汗症 3一八二  
 母斑 3一八三  
 扁平 3一八三  
 疣狀 3一八三  
 軟疣狀・脂肪腫樣 3一八三  
 有毛 3一八三  
 神經性 3一八四

線條 3一八三五  
 波蘭病 4一七八九  
 疱疹  
 寄生性 3一九六三  
 皮膚寄生性 3一九六五  
 頭部寄生性 3一九六九  
 ホタロー氏動脈管ノ先天性疾病 1二二九  
 ホタロー氏管ノ開放 1二三三  
 ホストック氏加答兒 1五六九  
 ホアーン氏裝置 1二二八  
 ホロケラトリス 3一八四四  
 ホリクロマトフキリ 4二九  
 ホリクロマシ 4二九  
 ホツギキン氏病 4二九  
 磨車音 1三三〇  
 滿口咯痰 1七六七  
 麻疹  
 喉頭筋 1六三〇  
 麻酔性 3一〇三  
 摸擬的顔面神經 3一六  
 顔面神經 3一  
 完全偏側性顔面神經 3一四  
 運動性三叉神經 3四六

舌咽神經 3五〇  
 迷走神經 3五一  
 食道 2一九八  
 ベル氏 3一六  
 不全末梢性顔面神經 3三五  
 兩側性完全末梢性顔面神經 3三四  
 副神經 3五五  
 舌下神經 3六〇  
 多發性腦神經 3六四  
 頸神經叢運動神經ノ末梢性 3六六  
 橫隔膜神經 3六八  
 膈神經叢ノ運動神經ノ末梢性 3七二  
 長胸神經 3七二  
 鋸筋 3七二  
 肩胛背神經 3八〇  
 上肩胛神經 3八一  
 肩胛下神經 3八三  
 前胸神經 3八四  
 腋窩神經 3八四  
 筋皮下神經 3八八  
 正中神經 3八九  
 取者 3一〇一  
 ドュシエンヌ氏分岐 3一八  
 睡眠 3九五  
 鼓手 九一、3一〇三

刺絡性 3九一  
 職業的 九一  
 尺骨神經 3九四  
 囚人 3一〇一  
 橈骨神經 3九九  
 挺杖 3一〇〇  
 多發性膈神經 3一〇四  
 嬰兒 3一〇一  
 エルブ氏叢 3一七  
 肋産 3一八  
 混合性膈神經叢 3二〇  
 腹筋 3二二  
 背筋 3二四  
 股神經 3二五  
 閉鎖神經 3二八  
 上臂神經 3三〇  
 下臂神經 3三一  
 坐骨神經 3三一  
 腓骨神經 3三四  
 脛骨神經 3三七  
 眼神經 3二八〇  
 朝時 3六三七  
 反射 3七五七  
 多發性下肢神經 3一四〇  
 發作性 3一四三

弛緩性 3六四六  
 急性大腸性小兒 3一〇四  
 震頭 3一〇八  
 震頭ナキ震頭 3一三五  
 陰部神經叢領域ノ運動神經 3一四二  
 核性眼筋 3八〇三  
 急性核性眼筋 3八〇四  
 慢性進行性核性眼筋 3八〇六  
 慢性進行性球 3七八〇  
 聯合性局部 3八二五  
 クルンブク氏 3一九  
 痙攣性脊髄 3六二六  
 急性小兒性脊髄 3六三六  
 大人性急性脊髄 3六五五  
 大人性亞急性及慢性 3六六〇  
 急性上行性 3七五〇  
 精神的脊髄 3七五九  
 擔炬火者 3一〇一  
 擔水夫 3一〇二  
 聯合性瞻視 3八八〇  
 膀胱 3一七五九  
 歇私的里性喉頭筋 3一三八三  
 頸部交感神經 3一四四七  
 歇私的里 3一三八一  
 實扶的里性後調節筋 4一四四八



實扶的里後 4一四四七  
 痲痺性外反(下眼瞼ノ) 3一九  
 痲癩胸 4一五六二  
 痲疹 4五八〇  
 丘疹狀 4五九六  
 小水疱狀・粟粒疹狀 4五九六  
 出血性 4五九七  
 黑色 4五九七  
 無痛性 4五九七  
 無粘膜疹性 4五九七  
 痲拉里亞 4九七三  
 惡性 4一〇〇九  
 厥冷性惡性 4一〇〇九  
 發汗性惡性 4一〇〇九  
 失神性惡性 4一〇〇九  
 昏睡性惡性 4一〇〇九  
 卒中性惡性 4一〇〇九  
 氣管枝性惡性 4一〇〇九  
 肺炎性惡性 4一〇〇九  
 心臟性惡性 4一〇〇九  
 黃疽性惡性 4一〇〇九  
 假面 4一〇一六  
 痲拉里亞惡液 4一〇二二  
 痲拉里亞・ブラスモデキエン 4九七三  
 末梢性假性ターベス 3三〇五 3二七五

每日熱 4九九三  
 慢性間歇的治療 4一九五一  
 マクスプールのネー氏ノ點 2五九二  
 マルタ熱 4九二三  
 木乃伊變性 1一六一  
 味覺過敏症 3二八六  
 歇私的里性 3一四〇二  
 味覺脫失症 3二八六  
 歇私的里性 3一四〇三  
 味覺異常 3二八七  
 歇私的里性 3一四〇三  
 蜜尿 4三九五  
 ミニセ氏徵候 1七五 3一五五九  
 ミコーシス  
 喉頭 1六六六  
 氣管枝 1七九八  
 鼻 1五七八  
 ミオクロニー 3二九九  
 ミク로스ボリー 3一九七六  
 無核乾葡萄試驗 2二〇九  
 無精症 2二七八

メ

無毛症 2二七八三  
 先天的 3二八七三  
 後天的 3一八七三  
 無實力肺結核患者療養所 4一六一七  
 Δンブス 4一〇八一  
 面疱 3一八二八  
 メガスト・エンテリクム 2七七八  
 メツサ頭 2一〇四四  
 メソヘパール 2一五九  
 メトロノーム 3五八六  
 メニエール氏病 3一三三七  
 メニエール氏狀態 3一三三八  
 メニンゴコクケン 4一三三三  
 メニンギスマス 4一四一九  
 メタロスコー 3一三九二  
 メチナフス 4一〇〇  
 メントール筆 3一四七二  
 網膜動脈ノ搏動 1七六  
 網膜炎  
 蛋白尿性 2二五二五 2二五三五  
 白血病性 4一九一

モ

網膜動脈ノ搏動 1七六  
 網膜炎  
 蛋白尿性 2二五二五 2二五三五  
 白血病性 4一九一

痲疾性 4一八二六  
 出血性 2一五三六  
 微毒性 4一九三〇  
 盲腸炎  
 加答兒性 2五三二  
 宿便性 2五三二  
 門脈炎  
 化膿性 2二四二  
 壞爛性 2二四四  
 門脈破裂 2二四八  
 門脈ノ動物性寄生物 2二四八  
 毛 齧炎  
 鬚 3一七五七  
 項部硬化性 3一七六三  
 毛 蠶 3一九三四  
 毛髮黴菌症(結節狀) 3一九七八  
 毛 蟲 3九四  
 モルファン氏病 3五三六  
 モンゴリズム 3一五三六  
 モロ氏皮膚軟膏反應 4一六〇七

ユ

遊走心 1四二一  
 遊走肝 2一五七  
 遊走腎 2一六〇八

遊走脾

遊走脾 4六五  
 白血病性 4一八六  
 遊離鹽酸 2二二七  
 遊離鹽酸定量法  
 ミンツ氏 2二二二  
 メヨルネル氏 2二二二  
 幽門閉鎖不全 2二八六  
 幽門切除術 2三九一  
 幽門成形術 2四三二  
 幽門ノ無血性擴張法 2四三三  
 幽門閉鎖不能症 2四七六  
 輪腸總管切開術 2二三五  
 有色汗 3一八一四  
 油試驗 2二〇九  
 陽萎ノ搏動 1七七  
 陽萎索 4一八〇〇  
 陽性靜脈脈搏 1二二六  
 沃度加里試驗 2二〇六  
 用手展伸法 2六七二  
 蠅 族 2八八七  
 蠅 蛆 病 3一九四五  
 腰腫大 3三六四  
 腰部穿刺 3七三一

ヨ

陽萎ノ搏動 1七七  
 陽萎索 4一八〇〇  
 陽性靜脈脈搏 1二二六  
 沃度加里試驗 2二〇六  
 用手展伸法 2六七二  
 蠅 族 2八八七  
 蠅 蛆 病 3一九四五  
 腰腫大 3三六四  
 腰部穿刺 3七三一

ラ

螺旋絲 1八一九  
 卵黃痰 1一〇四五  
 癩 4一七六〇  
 結節 4一七六九  
 神經 4一七七七  
 知覺脫失 4一七七八  
 截斷 4一七七八  
 斑紋痲痺 4一七七八  
 結節神經 4一七八〇  
 ライヒマン氏病 2五〇二  
 ラセーグ氏現象 3二四三  
 ランゲルハンス氏島 4四四五  
 ラクトーリス尿 4四七一  
 ラウフッス氏吹粉器 1六〇一  
 淋巴腺炎  
 急性氣管・氣管枝 1八四九

リ

淋巴腺炎  
 急性氣管・氣管枝 1八四九



慢性氣管・氣管枝 1八四九  
 結核性氣管・氣管枝 1八五一  
 淋巴管腫(肝) 2一三二  
 流涎症 2四八  
 歇私的里性 3一四〇三  
 流行性感冒 4八八八  
 加答兒性 4八九六  
 敗血膿毒性 4九一〇  
 原發内臟性 4九一一  
 昏睡性 4九一一  
 流行性耳下腺炎 4一〇八一  
 裏急後重 2五三四  
 利尿急迫症 2一七二五  
 立體的鑑識力 3二六四  
 力神ノ障礙 3五八八  
 鱗屑癬 3一七七〇  
 口内雜疹又口内 2三八  
 點狀 3一七七四  
 滴狀 3一七七四  
 貨幣狀 3一七七四  
 圓板狀 3一七七四  
 輪狀 3一七七四  
 迂曲 3一七七四  
 地圖樣 3一七七四  
 彌漫性 3一七七四

黑色 3一七七四  
 汚濁性 3一七七五  
 疣狀 3一七七五  
 舌 4一九九五  
 黴毒性 4一九二三  
 糖酸尿 4四九一  
 綠尿 4五〇〇  
 硫化水素尿 4五〇一  
 良心條款 4七九九  
 雙麻質斯性筋肝脈 4八六九  
 雙麻質斯  
 急性關節 4八〇三  
 假性急性關節 4八一六  
 慢性關節 4八三五  
 游走性慢性關節 4八三八  
 結節性慢性關節 4八四〇  
 筋 4八六六  
 痲疾 4一七九〇  
 痲菌 4一七九〇  
 痲絲 4一八四一  
 龜頭 4一八二五  
 男子急性尿道 4一七九四  
 急性前尿道 4一七九八  
 急性後尿道 4一七九八

露西亞 4一八〇一  
 男子慢性尿道 4一八四〇  
 女子泌尿生殖器ノ急性 4一八五一  
 女子泌尿生殖器ノ慢性 4一八六三  
 直腸 4一八六六  
 口腔 4一八六九  
 鼻 4一八七〇  
 軍人 4一八四二  
 痲毒性結膜炎 4一八一五  
 リュール氏硝子注入器 1一三六〇  
 トトル氏病 3六三四  
 リヅロース尿 4四七〇  
 リッテル氏橫隔膜現象 3六九  
 戀愛熱 4八四  
 鏈狀淋巴腺 4一七四九  
 レゾルチン試験 2二二九  
 レーノ氏病 3一四九〇  
 レプリーゼ 4一〇六二  
 老人環 1三八四  
 肋膜炎 1一七三  
 雙麻質斯性 1一七九

外傷性 1一七九  
 蟲樣垂性 1一八二  
 濕性 1一八五 1二〇七  
 乾性 1一八五 1一九七  
 瘰癧性 1一八八  
 漿液性 1一八八  
 膿性 1一八九  
 血性 1一九〇  
 腐敗性 1一九一  
 混合性濕性 1一九三  
 潜伏性 1一九六  
 囊性濕性 1二三一  
 多房性濕性 1二三二  
 橫隔 1二三二

葉間 1二三三  
 搏動性 1二三三  
 劇性 1二四四  
 畸形性 1二四七  
 癌腫性 1三三八  
 肋膜炎性肝脈 1一九六  
 肋膜痛 1二五二  
 肋膜心囊性或ハ心囊外性摩擦音 1二五二  
 肋膜新生物 1三三七  
 漏斗裝置 1二八三  
 蠟腎 2二五六〇  
 癆性體質 4一五五九  
 ロート氏斑 1四一  
 ロバートソン氏症狀 3五九七

ローランド氏瘡 3八一九  
 ロダーゲン 3一五七五  
 ロイデ 3一九二九  
 ローンスタイン氏糖量計 4四〇七  
 ワルテンブルグ氏氣槽 1七三三  
 ワルレル氏ノ法則 3三八一  
 ワレー氏壓點 3一九一  
 ワイクセル辦髮症 3一九三七  
 ワイル氏病 4一三三〇  
 ワッセルマン氏反應 4一九三八



第一版 (明治廿四年五月二十日印刷)  
第二版 (明治廿九年七月十九日印刷)  
第三版 (明治卅五年四月十六日發行)

第四版 (明治卅七年七月二十日印刷)  
第五版 (天正五年十一月九日印刷)

愛氏內科全書第二十五

正價金九拾錢

原譯者

故 廣瀨桂次郎

補譯者

原田八十八

發行者

東京市神田區通新石町九番地  
大柴四郎

印刷者

東京市京橋區築地三丁目十一番地  
野村宗十郎

印刷所

東京市京橋區築地二丁目十九番地  
株式會社 東京築地活版製造所

發行所

電話神田二二三  
振替東京二四三

東京市神田區通新石町九番地  
朝香屋書店



肆 書 捌 賣

東京市日本橋區通三丁目	九善株式會社
同 本郷區湯島切通坂町	南 江 堂
同 同 同	金 原 商 店
同 同 春木町二丁目	半 田 屋 書 店
同 同 龍岡町	吐 鳳 堂
同 同 同	南 山 堂
同 同 春木町三丁目	南 江 堂 支 店
同 同 本富士町	明 文 館
同 同 同	文 光 堂
大阪市南區心齋橋筋一丁目	松 村 九 兵 衛
同 東區博勞町四丁目	丸善株式會社大阪支店
京都市上京區寺町通御池南	南江堂京都支店
同 寺町通二條下ル	若 林 茂 一 郎
名古屋市中區榮町六丁目	名 古 屋 丸 善 書 店
金澤市片町	宇 都 宮 書 店



53
3



終